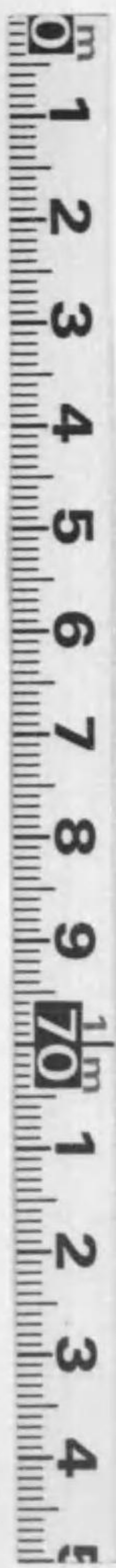


344

211



始



七段 阪田三吉著

將棊新定跡講義

大阪 名倉昭文館發行

將棊道の訓言

- 王將は早く要害之地を選む可し
- 王脇の金銀の護衛忘る可からず
- 金は歩の頭に上る事大に注意すべし進む事早くして退く事遅き駒也
- 相手の歩切れ見逃す可からず
- 歩二つより大切にすべし
- 飛角の捨場所肝要也
- 龍馬は手前にて使ふに利ありとす
- 龍王は敵地に使ふに利有りとす
- 王は一手前に逃げ置く事名手なり
- 手前の歩打避く可し

○將棊道の訓言

大正
2. 4. 7
丙寅

七段 阪田三吉著

將碁新定跡講義

大阪 名倉昭文館發行

將碁道の訓言

- 王將は早く要害之地を選む可し
- 王將の金銀の護衛忘る可からず
- 金は歩の頭に上る事大に注意すべし進む事早くして退く事遅き駒也
- 相手の歩切れ見逃す可からず
- 歩二つより大切にすべし
- 飛角の捨場所肝要也
- 龍馬は手前にて使ふに利ありとす
- 龍王は敵地に使ふに利有りとす
- 王は一手前に逃げ置く事名手なり
- 手前の歩打避く可し

○將碁道の訓言



- 持駒は諸方に當りを含んで打べし
- 駒の離れぬ様注意すべし
- 持駒は打ちたる意氣にて指すべし
- 七五三筋及端に手有る事多し殊に五五の場所は天王山なりとす
- 定法を離れて指すは終りに悪し
- 勝を欲せば敗れざる事を心懸くべし

										名人 準名人 上手 上手間 上手並	
											九段
										交香車	八段
										定香	七段
									交角車	同上	六段
									定角	同上	五段
									交飛車	同上	四段
									定飛車	同上	三段
									交飛香車	同上	二段
									定飛香	同上	初段

將碁新定跡講義目次

第壹編 六枚落 (通俗金銀).....	一
第一章 六枚落 六六角上り.....	一
第二章 六枚落.....	四
第二編 五枚落 (通俗片桂馬).....	七
第一章 六六角上り.....	八
第三編 四枚落 (通俗兩桂).....	一一
第一章 四枚落 上手方早指し金上り.....	一一
第二章 四枚落.....	一六
第三章 四枚落.....	一九
第四編 二枚落.....	二三
第一章 二枚落 銀多傳七筋飛廻り.....	二四
第二章 二枚落 銀多傳.....	二七
第三章 二枚落.....	二八

○目次

盤面圖解

九ノ一	八ノ一	七ノ一	六ノ一	五ノ一	四ノ一	三ノ一	二ノ一	一ノ一
九ノ二	八ノ二	七ノ二	六ノ二	五ノ二	四ノ二	三ノ二	二ノ二	一ノ二
九ノ三	八ノ三	七ノ三	六ノ三	五ノ三	四ノ三	三ノ三	二ノ三	一ノ三
九ノ四	八ノ四	七ノ四	六ノ四	五ノ四	四ノ四	三ノ四	二ノ四	一ノ四
九ノ五	八ノ五	七ノ五	六ノ五	五ノ五	四ノ五	三ノ五	二ノ五	一ノ五
九ノ六	八ノ六	七ノ六	六ノ六	五ノ六	四ノ六	三ノ六	二ノ六	一ノ六
九ノ七	八ノ七	七ノ七	六ノ七	五ノ七	四ノ七	三ノ七	二ノ七	一ノ七
九ノ八	八ノ八	七ノ八	六ノ八	五ノ八	四ノ八	三ノ八	二ノ八	一ノ八
九ノ九	八ノ九	七ノ九	六ノ九	五ノ九	四ノ九	三ノ九	二ノ九	一ノ九

二

VV V V V

第五編 飛香落 (通俗一丁半)	三二
第一章 飛香落 端飛廻り	三二
第二章 飛香落 上手二三角留め下手居飛車	四〇
第六編 飛車落	四六
第一章 飛車落 中居住い	四七
第二章 飛車落 居飛車引角	五二
第七編 角行落	六〇
第一章 角落 下手方櫓模様圍方	六〇
第二章 角落	六七
第八編 左香車落	七三
第一章 左香落 上手早圍い六四銀上り指方	七四
第二章 左香車落 烏指し	八二
第九編 平手	九二
第一章 平手 居飛車	九二
第二章 平手 先手四間後手居飛車	一〇二

欠

欠

將棊新定跡講義

七段 阪田三吉著

第壹編

六枚落 通俗金銀

六枚落は碁道に於て極極の初歩でありまして道に入らんとする者の第一に通るべき關門であります初歩と申しましても初心の御方即ち定跡を御存じないと却却高段に向つては勝てません高段者に勝たんと欲せば定跡即ち駒の運用を習熟せねばなりません高が金銀四枚であります如何に名人上手と雖も下手が念入りの悪手を指さぬ以上はそふそふ紛さる理由は斷じてないのであります次編に解く兩桂の定跡と共に下手の必勝法でありますから金銀位で馬鹿にせずと良く良く御習熟の程を願います以下詳細に説明致します。

第一章 六枚落 六六角上り

○三二金銀七六歩○七二金銀六六角○八二銀銀九六歩○七四歩銀九五歩○七三

金九四歩○同歩●同香○八四歩●九二香(成)○八三銀●九八飛○九四歩(打)●九三成香第一節

【講義】○三二金は敵の形勢を窺ふたのであります●七六歩は直に角の鋭鋒を敵に向けたので此時一番手の廣い良手であります○三二金は左端の防ぎ●六六角は左端を脅かし又後に五七へ引く意味もありません○八二銀は守備●九六歩と端を攻めます○七四歩は七三金と登り端指を紛らす趣向です●九五歩と肉薄する○七三金●九四歩○同歩●同香○八四歩若し八四金と上れば五五角でよろし●九二香(成)○八三銀と逃げる●九八飛と振る○九四歩(打)●九三成香と引いて勝てあります

○三二金●七六歩○七二金●六六角○八二銀●三六歩○四二銀●一六歩○五四歩●二六歩○五三銀●五六歩○四四銀●四六歩○七四歩●四八銀○七三金●三七桂○六四金●四五歩○五三銀●七七桂○五二王●四七銀(盤面圖)○七五歩●同歩○七三銀●五七角○八四銀●七八飛○七五金●八五桂○六四銀●九三桂(成)○七六歩(打)●八三成桂○八五銀●六八銀○七四銀(引)●八四成桂○六五銀(右上)●七四歩第二節

【講義】○三二金●七六歩○七二金●六六角○二銀までは前節の説明に依り御判りでせふ次に●三六歩は角の狙みで

三筋に進撃する含み○四二銀は三筋を守り又五三より陣頭に出る含みもあり
ます●一六歩○五四歩と位を取る●二六歩○五三銀は角頭に懸る意味もあります●五六歩は角の捌きをつける手○四四銀●四六歩は四五銀と来られては悪いからです○七四歩左金銀を繰り出す含み●四八銀○七三金●三七桂は銀を退却せしむる爲です○六四金は角を脅かしに来るのであります故に進まぬ様に●七七桂此桂の使用法は難かしいから其御考へで御習熟願います○五二王●四七銀之で盤面の圖と爲りました上手



方は此時手詰りて指す所はありませんが自分の手番ですから○七五歩と突いて見ませぬ桂先を狙うたので▲同歩○七三銀▲五七角と後に金に當てられぬ様に五七へ引き一三に成含みも残し置きます五七角引かすに七四歩同銀九三角(成)七六歩で面白くありません上手は一三角成りあるに拘らず強く○八四銀▲七八飛茲で一三角(成)手も悪くはありませんが此方が面白いのです○七五金▲八五桂は金でも銀でも取れぬから(○七六歩(打)と留める▲九三桂(成)で銀で取れば七五へ角の出がありますから七六歩も打てませぬ○六四銀と登り金を繋ぎます▲九三桂(成)銀で取れば七五角切りで勝ち七六歩でもよろしい故に(○七六歩(打)て飛車を防ぐ▲八三成桂○八五銀▲六八銀○の時八四成桂と引く時は七七歩(成)同飛七六銀で面白くなし(○七四銀▲八四成桂○六五銀▲七四歩とぶらさげて安全の勝であります。

第二章 六枚落

○三二金▲七六歩○二二銀▲二六歩○四二王▲二五歩○七二金▲三六歩○八四歩▲四八銀○六二銀▲三七銀○五四歩▲四六銀○五三銀▲三七桂(盤面圖)○四四

歩▲二四歩○四三王▲二三歩(成)○同銀▲二四歩(打)○一二銀(引)▲一六歩○二二歩

(打)▲一五歩○八三金▲二五桂○七四金▲一四歩○同歩▲同香第一節

〔講義〕○三二金▲七六歩○二二銀は普通の手此時下手から六六角と出た手は已に説きましたから飛先で襲撃する意味で▲二六歩と突いて見ませぬ○四二王と御大將が金銀と共に防備の陣地に着きます▲二五歩と肉薄する○七二金▲三六歩○八四歩は敵が六六角と出た時に八三金と上り角道を留めるのであります▲四八銀○六二銀▲三七銀○五四歩は銀を捌き且つ位取り▲四六銀○五三銀▲三七桂で盤面の圖と爲りました此時(一)四四歩(二)四四銀(三)八三金の別れがあります以下詳しく説きませぬ。

(一)四四歩と指しましたならば。

▲二四歩と衝き蒐ります(二)四歩突かすに三五銀と出ると四三王二四歩三四歩二三歩(成)同銀二四歩一二銀(引)く四六銀(引)て位は宜しいが下手としてはあまり面白い形ではありません(○四三王若し同步なれば三五銀四三王二四飛で亂れです▲二三歩(成)○同銀▲二四歩(打)○一二銀(引)▲一六歩と噪らす端から蒐ります(○二二

○第一編 六枚落

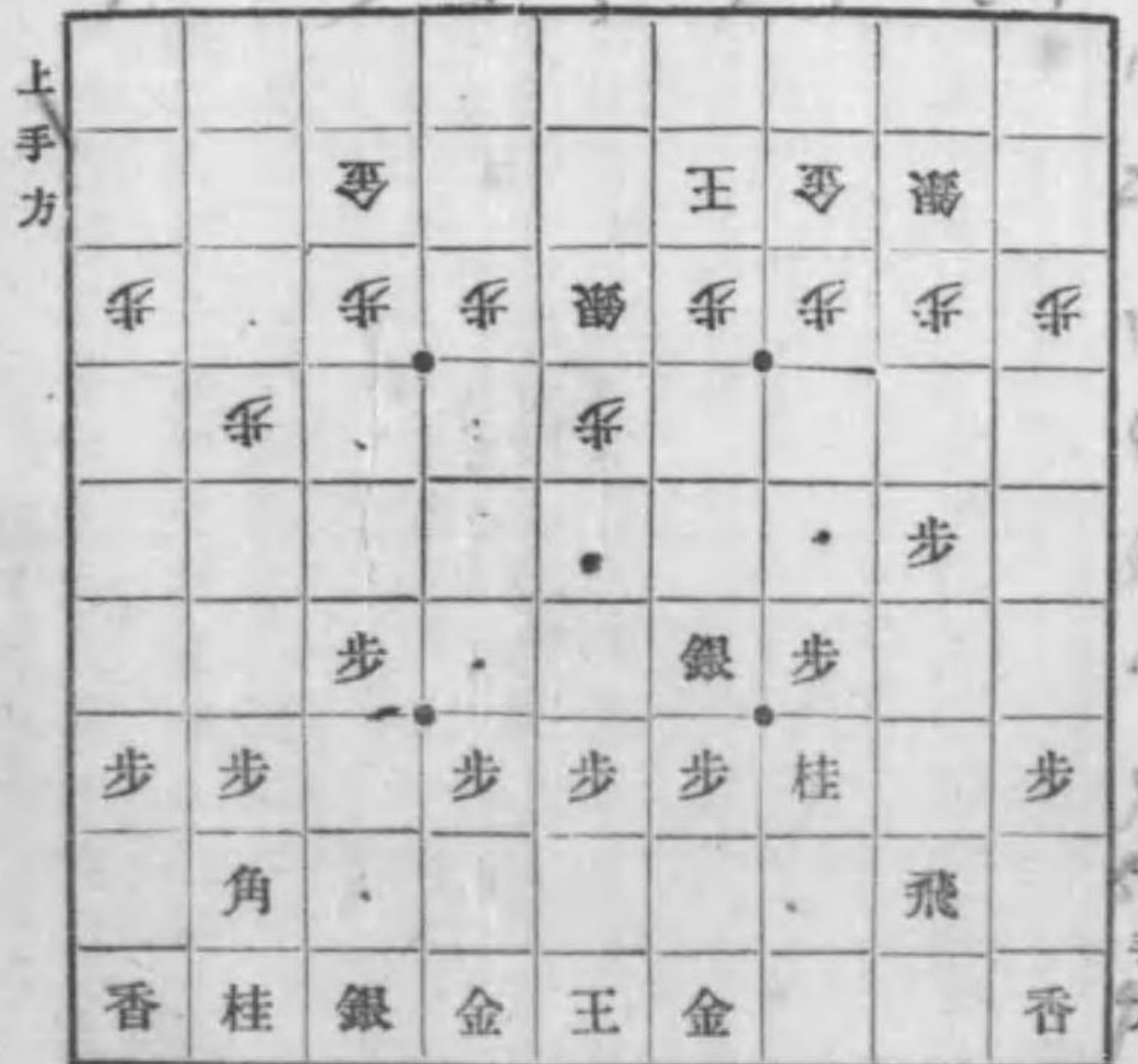
歩(打)と凌ぐ、一五歩〇八三金端はもふ手の着けよふがない只紛碎を待つ許り
二五桂〇七四金一四歩〇同歩同香
で全然潰滅最早や戦闘力を失ふたので
あります。

(二)〇四四銀 盤面以下の指

六八銀〇八三金五六歩〇七四金
五七銀〇六五金七八飛〇七四歩六
六歩〇六四金六八飛〇七五歩六五
歩〇七四金七五歩〇七三金七八飛

第二節

〔講義〕〇四四銀六八銀と繰る〇八三
金と登る五六歩は位取り〇七四金と
歩を七筋に渡りに來ます五七銀〇六
五金と歩を只取りにせふと致しますから七八飛と振ります〇七四歩六六歩



上手方

下手方

六

で〇六四金と下げます六八飛と廻りて金を擒にせふとしますから〇七五歩
六五歩と突く〇七四金と寄る七五歩〇七三金七八飛で大によろし。
(三)〇八三金 盤面以下の指方

七七八銀〇七四金六六歩〇六四歩六七銀〇六五歩六八飛〇六四銀六五
歩〇同金六五歩(打)〇五五金三五銀 第三節
〔講義〕七七八銀と臨機の所置に出る〇七四金と進む六六歩は巧に金の奇襲を
食い留めたのであります〇六四歩はごこまでも六筋に仕薙の味を残します
六七銀攻守兩様の手〇六五歩と衝薙りました茲で同歩でも悪くはありませんが
六八飛と舞ふのが面白いのであります〇六六歩と取れば同銀で面白くないか
ら〇六四銀と出る六五歩〇同金六五歩(打)〇五五金三五銀と透かして後に
五六歩衝きの味が残りて下手が大によろしい凡で六枚落だと云ふて一擲にかゝ
つてはなりません一手の指し方で勝敗顛倒する事があるのです。

第二編 五枚落 通俗片桂馬

○第二編 五枚落

七

桂馬が一枚増した爲めに片方の端掛りの意味が難かしくなりますが指方に依りては金銀と別に變りはありませんから其御考で御習熟あらん事を願います。

第一章 六六角上り

○七二金▲七六歩○八四歩▲六六角○八三金▲八六歩○八二銀▲八八飛○七四歩▲五六歩○七三銀▲七八銀○六四歩▲七七桂○五二金▲四八王○六三金▲三八王○五四歩▲五八金(左)○五二王▲四六歩○四二銀▲三六歩○五三銀▲四七金○四四歩(盤面圖となる)

【譯義】○七二金と最も薄い端を守ります。▲七六歩○八四歩は角路を留める含み▲六六角と端を狙います。○八三金と歩を防禦致します。▲八六歩と負けずに衝ます。○八二銀も守備の手▲八八飛は角と共力して敵を紛碎するのであります。○七四歩▲五六歩と突く此時五六歩衝かすに八五歩と早指しの法もあれど先ず王を圍ふて後に戦鬪を開くが後顧の憂なく萬全の策であります。○七三銀▲七八銀と繰り上る。○六四歩は角の頭を痛めんとする歩▲七七桂は角の頭を守り時機を見て八五六五に飛ばんとするのです。○五二金は敵が右端に全力を集注致しました

からこちらにも金を繰出て備への一員とするもの▲四八王は戦鬪も迫りましたか

ら王を堅固にするのであります。○六三金▲三八王○五四歩▲五八金(左)と締める。○五二王▲四六歩○四二銀▲三六歩○五三銀は五筋四筋の防備▲四七金と王の頭を守る。○四四歩で盤面の圖となりました下手方はこれから如何攻めませふか次に説明致します。

盤面以下の指方

▲八五歩○七五歩▲八四歩○同銀▲八五歩(打)○七三銀▲七五角○七四金▲四八角○八二銀▲八四歩○七三金▲八三歩(成)○同金▲九三角(成)○八四歩(打)▲九二龍馬○六二王▲八一龍馬○七三銀▲八五歩(打)○同歩▲同桂○八四銀▲九二龍

									香
									桂
									銀
									金
									王
									歩
									歩
									角
									歩
									桂
									飛
									歩
									香

馬○八二步(打)●九三桂(成)○七三金●八二成桂○八五步●八三成桂○同金●同龍馬○七三金(引)●九二桂行く手もあり●七二金(打)○同金●八四龍馬○七三桂(打)●七五步○八三金(打)●九五龍馬○五二王●八四步○八二金●七四步○六五桂●八五龍馬○四二王●六六步第二節

【講義】●八五歩と飛先の歩を切りて戦闘にかゝります○七五歩と角道を留める若し七五歩突かずに同歩なれば同桂八四銀九三桂(成)同金八四角でよろしい●八四歩○同銀●八五歩(打)で○七三銀と退らします●七五角と桂先の痛みを消します○七四金(左)と角にあてます●四八角と引く敵もほつて置くと七五歩で金桂の換りと爲ります六五歩と敵が突いたのでは同桂同金八四歩同銀同角で悪いから○八二銀(引)●八四歩と衝き蒐る○七三金と寄る●八三歩(成)○同金●九三角(成)は金でも銀でも取れませんが○八四歩(打)で飛道を留める●九二桂○六二王●八一桂と寄ります外の手を指すと七二王と寄られ桂の活動を制せられます○七三銀は五五歩と突かれ同歩を取らして五四歩(打)の手がありますから五五歩の時に八二金で桂の利道を背けたのであります●八五歩○同歩●同桂○八四銀と上る

●九二龍馬と金を脅かします○八二歩(打)と繋ぐ●九三桂(成)同金なれば七四龍馬又同銀なれば八三龍馬で大に宜しいから○七三金と開く●八二成桂○八五歩(打)●八三成桂仕方なく○同金●同龍馬○七三金(引)●九二龍馬と寄るのは八三歩(打)の手が残り穩な妙手ですが●七二金○同金と取らし●八四龍馬○七三桂と間を致します●七五歩○八三金で●九五龍馬と何所までも王を狙ふ○五二王●八四歩(打)○八二金と引かせて●七四歩○六五桂●八五龍馬○四二王●六六歩で完全なる大勝利であります。

第三編 四枚落 通俗兩桂

第一章 四枚落 上手方早指し金上り

六枚落から四枚落までは下手が定跡を會得して居られると必勝法であります力は四枚落あつても定跡を知らぬ爲めに敗を取る事があります遺感千萬の事であります篤と御修養の程を願います以下愚見を開陳致します。

○四二銀●七六歩○五四歩●四六歩●五三銀●四五歩○三二金●四八銀○七二

金▲四七銀○五二王▲四六銀○七四歩▲七八銀○七三金▲五六歩○六四金▲五八金(左)○六五金▲四七金○六二銀▲五八飛○六四銀▲四八王○五三銀(上)▲三九王○二四歩▲三六歩○八四歩▲一六歩○二三金▲三八金○八五歩▲六六歩○七六金▲五五歩○同歩▲六五歩○同銀(盤面之圖)第一節

〔講義〕○四二銀▲七六歩○五四歩の五筋は戦鬪の要路でありまして敵が早指しに來ても金銀の早く繰れる様にしたのであります▲四六歩は敵に五三銀と上られ四四歩と角道を突き留められぬ様に突いた手○五三銀▲四五歩で角筋は通つて居ります○三二金は二筋三筋の守り▲四八銀と繰り上る○七二金は七筋の守りと上りては角頭を痛めんとするのです▲四七銀○五二王は此際どこに行つても悪いから金銀の中央に居る形と致します▲四六銀○七四歩は金桂の捌き▲七八銀と角先を豫防する○七三金▲五六歩は位取り○六四金と上ります▲五八金(左)此時五八飛の手順もありませんが之が最も穩かな好手です○六五金と指して早指しに來ましたが恐るるに足らぬ然し五六へ食い込まれると悪いから▲四七金と上る○六二銀と備へる▲五八飛と王頭を狙います○六四銀と立つ王が中央に

居つては安心して戦へぬから▲四八王と繰る▲五三銀は王の守り▲三九王と低く圍ふ○二四歩は金を上る意▲三六歩は後に三四歩と衝▲九角と化る含▲八四歩は金と共力して角頭を攻撃するのであります總じて金銀兩桂の將基に於て上手の乗すべき所は角頭ですから良く注意を要します▲一六歩と指して王を廣くします○二三金と上る▲三八金○八五歩と敵も近寄りましたから機先を制して▲六六歩○七六金と取り込まして▲五五歩と突き▲同歩は致し方なし此時下手方同銀と取と五四歩(打)同銀同銀同飛五三歩(打)で下手は後手と爲り面白くありませんから▲六五歩と突き○同銀と取らせる是で盤面の圖となりました

盤面以下の指方 春▲四四歩○同歩▲五五銀○五四歩▲四四銀○同銀▲同角○五三銀(打)▲八八角(引)○八六歩▲同歩○八七歩(打)▲七九角○六六銀▲六五銀(打)○六七金▲同銀○同銀(不成)▲五七飛○六六銀(打)▲五九飛○五五銀(引)▲三五角○四四歩(打)▲七九飛○六四銀(引)▲同銀○同歩▲七四飛○七三銀(打)▲七七飛○八八歩(成)▲七四歩(打)○七八銀(成)▲七六飛○六二銀(引)▲七五飛○八四歩▲七二銀(打)○三四金▲五七角(引)○八九成銀▲六三歩(打)○同銀▲同銀(成)○同王▲七三歩(成)○同桂▲七四銀(打)○五二王▲七三銀(成)○五一桂(打)▲六三歩(打)○四五歩▲

三五桂(打)〇四四金(成)六二步(成)〇同銀(成)同銀(成)同王(成)七一銀(打)第二節
 右變化春四四歩の處(成)五五角と指せば
 〇五七歩(成)同飛(成)〇五六歩(成)同金(成)〇同銀
 同飛(成)〇六五金(打)〇五九飛(成)〇五五金若
 し同飛と取れば六六角(打)二八王五五角
 同銀五四歩(打)四六銀引く手順となり下
 手の力にては指にくし夫故本文に戻り
 同銀(成)〇五七歩(打)此時同飛と取れば七
 五角(打)にて面白くなし(成)五四歩(打)〇六
 二銀(成)七七歩(打)〇七五金と引かせ(成)五
 七飛と指す方安全なり。
 【講義】四四歩と突(成)同銀なれば王
 の頭通りますから同歩と取らします〇
 同歩(成)五五銀と肉薄する〇五四歩と受
 ける(成)四四銀と取り込む〇同銀より致
 方ありません(成)同角〇五三銀穩しく(成)八八角と引いて居ります〇八六歩突出し

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	角	歩	歩	銀	歩	歩	香
歩	歩	銀	飛	金	歩	歩	歩	歩
歩	歩	銀	飛	金	歩	歩	歩	歩
歩	歩	銀	飛	金	歩	歩	歩	歩
歩	歩	銀	飛	金	歩	歩	歩	歩
歩	歩	銀	飛	金	歩	歩	歩	歩
歩	歩	銀	飛	金	歩	歩	歩	歩
歩	歩	銀	飛	金	歩	歩	歩	歩
歩	歩	銀	飛	金	歩	歩	歩	歩

同歩(成)〇八七歩(打)〇七九角とすかします〇六六銀と脅(成)やかします茲で静かに
 六五銀と應(成)戦(成)します攻守(成)兩様の好手(成)であります〇六七金(成)同銀(成)〇同銀(成)不感(成)五
 七飛と浮く〇六六銀(打)で(成)五九飛と引く上手此時外の手を指しますと下手から
 五六銀と出られまして崩(成)れます故〇五五銀(引)〇三五角で五三角切りの手がある
 から〇四四歩と留(成)める此時三四金と指せば五四銀同銀上手も同銀と取るより致
 方なし五三金(打)四一王四三歩(打)にてよろし(成)七九飛を振る此時五五飛切の手も
 あります即(成)五五飛同歩五四歩(打)六二銀四角で勝でありますが七九と飛を振り
 て指して見ませふ〇六四銀(引)は七筋の守り(成)同銀(成)〇同歩(成)七四飛(成)〇七三銀(打)〇
 七七飛(成)〇八八歩(成)次に六七飛と銀取つては手が遅(成)れますから七四歩(打)〇七八
 銀(成)〇七六飛(成)〇六二銀(引)〇七五飛は八五に飛車を振る含(成)です〇八四歩(打)〇七二
 銀(打)〇三四金は角(成)が茲に居ては邪魔(成)になりますから逐(成)ふたのであります〇五七
 角(引)〇八九成銀と仕(成)方なく桂を取り(成)ます六三歩(打)〇同銀より致(成)方ありません
 同銀(成)〇同王(成)〇七三歩(成)と激(成)しく迫(成)ります上手斯(成)様になつては受ける一方です
 〇同桂(成)〇七四銀と打(成)つ〇五二王(成)〇七三銀(成)〇五一桂と兎に角(成)凌(成)いで置(成)きます
 六三歩(打)〇四五歩と突(成)いて王の逃(成)道を作り且(成)つ下手が一手でも手(成)緩い事をして
 居れば四六銀と打(成)込もふとの意(成)です〇三五桂は王の逃(成)道を塞(成)ぎ四三金と打(成)込

んとするのです○四四金(寄)六二歩(成)同銀同銀同王七一銀(打)で末は寄りであります。

第二章 四枚落

○六二銀一六歩○五四歩一五歩○五三銀一八飛○二二銀一四歩○同歩同飛○一三歩(打)一八飛○七二金七六歩○五二王五六歩○六四歩五八飛○三二金五五歩○同歩同飛○五四歩(打)五八飛○四四歩六八銀○三四歩五七銀○七四歩五六銀○四三王六六角○二四歩九六歩○二三金九五歩○八二金八六歩○三三桂八五歩○三一銀(引)一二歩(打)○四二銀一歩(成)○一四歩一と○五二王八八飛○六三王八四歩○同歩八三歩(打)同金八四角○八二歩(打)六六角○三五歩七七桂(盤面圖)

〔講義〕總じて兩桂の將基は始め兩端の歩を衝いて勢力を左右に分離して其虚を衝くが定跡の致で有ます假令上手であるふと香が有ませんから端の守りは充分に出来る筈は有ません扱○六二銀は下手の趣向を窺ふ手で七四歩と突いて銀を繰り七筋八筋の防備を司り五四歩と突いて五筋四筋の防備に當ります一六歩は手薄い端を狙ふので有ます○五四歩は總じて將基は五筋の位が最も大切で

から先以て位を取つて置いたのです一五歩と肉薄致します○五三銀は攻守兩様の手で有まして最も手が廣く有ます一八飛と廻る○二二銀と守るそこで一四歩と衝て歩の交換を迫る○同歩同飛○一三歩(打)一八飛と退きます○七二金は左端の守備七六歩は角の活動の道を開いたので有ます○五二王は今何所に王を圍ふても悪いから中央に置いて諸將と共に防備の任に當るもの五六歩は位取り○六四歩は深い意味は有ません順々に駒を盛り上げる含み五八飛は方面を換へて王の頭を直接に指すので有ます○三二金五五歩○同歩同飛で○五四歩(打)五八飛(引)で下手方には歩をニッ得ました○四四歩六八銀と上に登る準備○三四歩は桂捌きの意五七銀○七四歩五六銀で棄て置けば五五歩で大變と成りますから○四三王と守るそこで又方面を變化して左端の攻撃の準備を致します六六角と上りて攻撃の順を立てます○二四歩九六歩○二三金九五歩と進みます○八二金と守らねば爲ませぬ八六歩○三三桂は時機を見て四五桂と飛び王頭を狙ふ含み八五歩○三一銀(引)は二二に居ては遊び駒に爲る故繰り變へて活動を計るので有ます一二歩(打)はと金を作らんとするもの

茲で又二銀と繰りましては手損になるからと金を作らせ考で○四二銀▲一
 一步(成)○一四歩と突く▲一二と他に手
 も有ませんから○五二王で敵の様子を
 見る▲八八飛と奇襲を企てる○六三王
 と守る▲八四歩○同歩▲八三歩(打)で金
 が逃げては益々悪く爲るから○同金▲
 八四角金で取れば同飛で敗北に爲ます
 故○八二歩と受けるので▲六六角(引)○
 三五歩▲七七桂で盤面剛と爲ます。
 盤面以下之指方

- 五二王▲八四歩(打)○七三金▲八五桂
 ○七二金▲九四歩○同歩▲九八飛
 (香)○五二王之所
 ○三四金▲二二と○四五金▲同銀○同桂▲三二と○五七銀(打)▲四二と

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	飛	角	銀	歩	歩	歩	香
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲

▲一手持
○一手持
下手方七四桂ノ局面
○一手持
○一手持
持駒一ツ

○講義 ○五二王は八筋が窮地に陥りましたから王が宵逃をするので有ます▲八
 四歩(打)○七三金で▲八五桂と飛ばれます次に六三金なれば八三歩(成)同歩九三桂
 (成)で凌ぎは有ません故○七二金と引いて見ます▲九四歩と突く○同歩▲九八飛
 で飛車成りの防ぎなく上手の負で有ます。
 又(香)五二王之所

○三四金と攻勢に出て見ませふ▲二二と開きます○四五金で強く▲同銀○同
 桂棄て置いて▲三二と迫る○五七銀(打)で▲四二とで上手六六銀となれば四二
 銀(打)七二王六三金(打)七一王八三飛(成)で必死の場合と成ます又四二と同銀なれば
 四四角と出られ五七の銀は馬鹿に成つて上手の切で有ます此定跡は紛れが少く
 て下手には宜しいと思ます。

第三章 四枚落

- 六二銀▲一六歩○五四歩▲一五歩○五三銀▲一八飛○二二銀▲一四歩○同歩
 ▲同飛○一三歩(打)▲一六飛▲三二金▲九六歩○七二金▲九七角○五二王▲六六
 歩○六四歩▲七六歩○七四歩▲七七桂○六三金▲七八銀○四四歩▲六七銀(盤面

【講義】○六二銀▲一六歩○五四歩▲一五歩○五三銀▲一八飛○二二銀▲一四歩
 ○同歩▲同飛○一三歩までは前章の説明に依りまして御了解になつた事と致し
 まして茲には説きません次に▲一六飛は飛車の横を通し活動の意味廣く有ます○
 三二金は守り▲九六歩は左端の攻撃の意味も有ますそこで○七二金と守つて置
 ます▲九七角と覗く○五二王と銀を繋ぐ▲六六歩は六五歩と突いて角道を通さ
 んとする含み○六四歩▲七六歩は桂の捌き○七四歩も同意味▲七七桂は時機を
 見て八五又は六五に飛ばんとするので有ます○六三金は端を守つて居ましたが
 六筋が窮地に陥たから其應援に行きます▲七八銀は順次繰り上る所○四四歩▲六
 七銀次に上手八四歩なれば八六歩七三桂一五飛にてよろし又七三桂の所七三金
 なれば八五歩同歩なれば八二歩(打)有りて下手方よろし之にて盤面圖

盤面以下の指方
 (春)○二四歩▲一四歩(打)○二三金▲一三歩(成)○同金▲一八飛○一四歩(打)▲六八飛
 ○三四歩▲五六銀○七三桂▲六五歩○同歩▲同桂○同桂▲同銀○六四歩(打)▲同

銀○同銀▲同飛○同金▲同角○五三銀(打)▲七三角(成)○三一銀(引)▲六四歩(打)○五
 一桂(打)▲六三銀(打)○同桂▲同歩(成)○四三王▲三五桂(打)○同歩▲五三と○同王▲
 三四銀(打)○五二銀(打)▲六五桂(打)○四二王▲六四馬○三二王▲五三桂(成)
 (春)○二四歩之所

○四二金▲一八飛○四三王▲五六銀○三四歩▲六八飛○七三桂▲六五歩○同歩
 ▲同桂○同桂▲同飛○六四歩(打)▲九五飛○九四桂(打)▲八五桂(打)
 【講義】○二四歩は金銀を繰り出して高く組上るもの▲一四歩(打)は飛車で横歩を
 取るよとするもの今歩の一步は大切です故是非なく○二三金▲一三歩(成)で○同
 金と取らせませすそこで▲一八飛と引いて方面を變へます○一四歩(打)で▲六八飛
 と奇襲を企だてる之時左金は使へませんが上手も六筋に全力を集注せられると
 防備に苦しみます○三四歩▲五六銀と作戦を進める棄て置けぬから上手も七三
 桂と極力防戦するいよ／＼▲六五歩と衝突致しました○同歩▲同桂○同桂▲同
 銀で○六四歩と打つ茲で銀を引いては何にも爲りません強く▲同銀○同銀で同
 角なれば同金同飛で六三銀(打)で留まります故飛車を見切りて▲同飛○同金▲同

角で角の成りは留め様は有ませんが四三王なれば三一銀(打)がある故○五三銀(打) 七三角(成)次に三二銀(打)と兩方から狭 撃さると堪まらぬ故○三一銀(引)六四 歩(打)○五一桂(打)と守れば六三銀と打 蒐ります○同桂(成)同歩(成)○四三王(三 五桂は良手で有まして○同歩より致方 有ません五三と○同王そこで三三 四 銀(打)と挟み打致します○五二銀(打)六 五桂○四二王(成)六四馬(成)間駒がない故○ 三二王(成)五三桂(成)で上手は守勢一方で 寄りて有ます。

(香)○二四歩の所○四二金なれば一八 飛と引ます○四三王(成)五六銀○三四 歩は桂を捌く意味も又三筋四筋の守りに金を繰る手順にも成ます六八飛と廻る

九	八	七	六	五	四	三	二	一
	桂						桂	
				王		香	香	
	香	香	香	香	香			
歩		歩	歩					飛
角	歩	桂	銀	歩	歩	歩	歩	
			金	王	金	銀	桂	香

下手方六七銀マアノ局面
持駒歩一ツ

○七三桂は守り六五歩○同歩(成)同桂(成)同桂(成)同飛(成)○六四歩(打)では九五飛 と廻る○九四桂(打)なれば八五桂(打)で凌ぎは有ません下手方の勝手で有ます以上 の如く只一所ばかり攻めずに隙を見て電光の如く突撃を行い上手をして策なか らしむる指方が肝要です。

第四編 二枚落

金銀兩桂の將基と比べると大駒二枚は落ちて居れども他の駒は皆揃ふて居るの ですから充分研究せられぬと中盤別れに必らず紛らされますこの將基に拘らず 己より激しく攻める事は賞美致しません古人の勝たんと欲せば負けざる様に心 掛く可しとは茲の意であります下手方が攻めずに耐ゆる所に妙味あり之が基道 の秘訣であります私も其意味を以て定跡を講述致します總じて上手方より角の 頭に金銀を繰り出して下手の狼狽に乗じて攻めるのですから下手方もよく此防 略を研究して機に應じ變に望みて勝敗を決すべきであります以下愚説を述べま す。

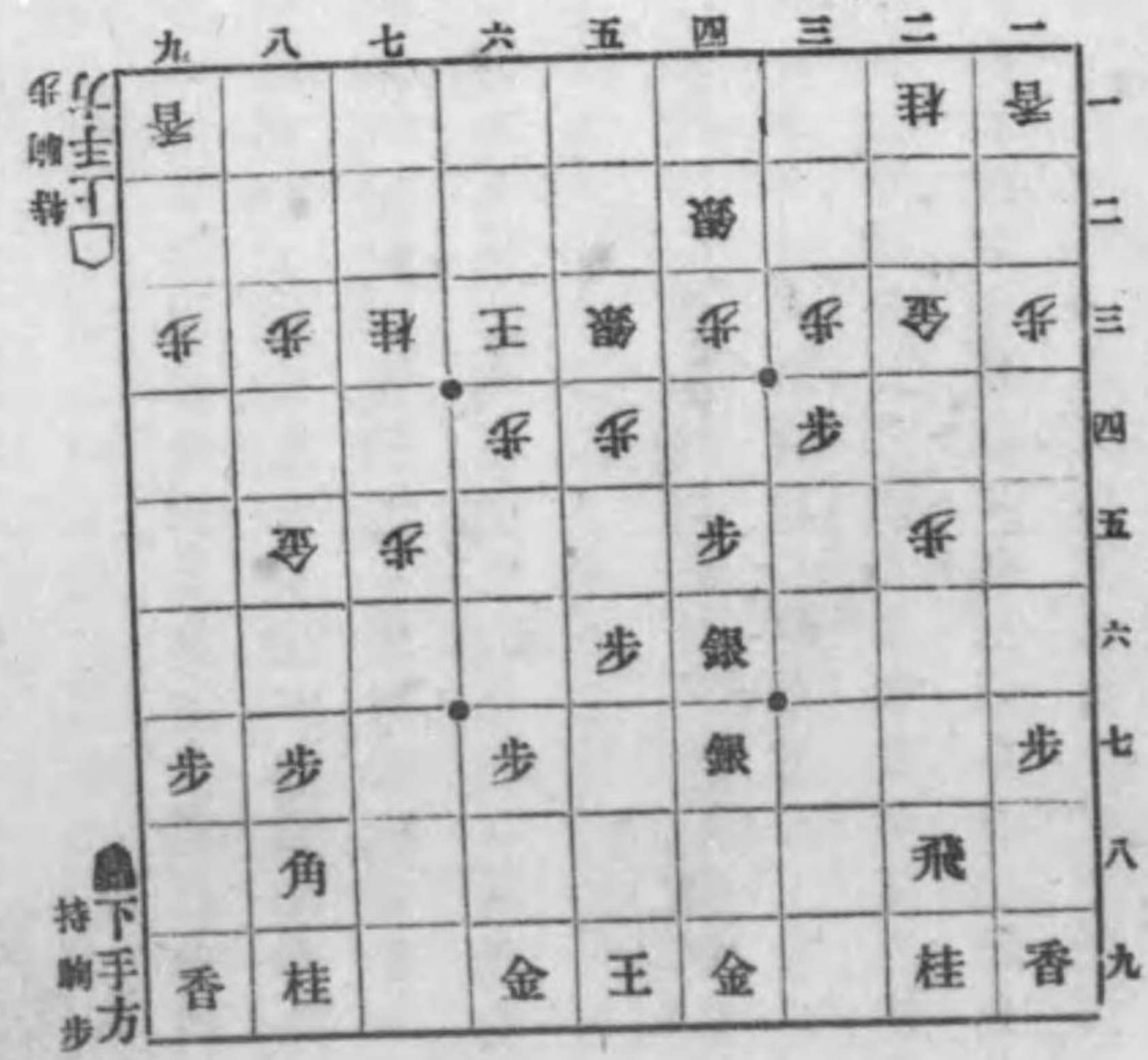
第一章 二一枚落

銀多傳七筋飛廻り

○六二銀は敵の形勢を窺ふ爲めに好位置を占めたのであります。七六歩角筋を通し其鋭鋒を直に敵に向けたのであります。四五歩は有利なる位を取つたもの。四六歩はごこまでも我角筋を通す手で茲で他の手を指すと五三銀と上られて四四歩と突かれ角筋を遮られます。四五三銀攻守兩様の手で、四五歩角筋を通せるもの。三二金は備への手。四八銀は上つて活動するのであります。○七二金は退いては王の頭を守り進んでは角頭に桂香の遊軍を引連れて痛みをつける。恐るべき金であります。四七銀。○五二王はごつちに依りても悪いから一先ず中央に陣を取り形勢を見る。三六歩金銀桂の捌きをつけるもの。○七四歩。五六歩左銀を繰るため。○六四歩は王を廣くし金を捌き後に角筋を留める意味もありません。二六歩飛先より攻撃を開始する手順として先ず突きます。○七三金とそろ／＼上ります。六八銀と繰ります。○八四金。五七銀と上り飛車の横を通す。○四二銀王の頭を防禦するもの。四六銀といつても攻め得る様に高く組みます。○七五歩愈々敵は七筋の歩を切りて金を進めて角頭に來ました。茲で同步同金七八金とし

める手もあるが七八飛が穩やかで良手です。七八飛。○七六歩。同飛。○七五歩と

位を取る。七八飛。○八五金之をほつておきますと七六金と指せれますから。五八飛と開く若しまだ七六金なれば七八金で次に七七歩と打つて金を殺すのであります。○六三王は五筋が危くなりましたから上つて銀と共力して防備の任にあたる。三五歩は三四歩と突いて角を化ろふとするのであります。○二四歩は三四歩と突けば二三金と上つて位を取らふとしますので。二八飛は急に方面を變じて攻撃の途を開きます。○七三桂。二五歩愈々白兵戦となります。○七同步茲で同飛と取つてはいけません直ちに。三四歩と突く同步と取れませんか



ら○(春)二。三。金と上る之で盤面の圖となります。
 此時三三歩(成)時は同桂三四歩同金で面白くありませんから二二歩と打つのが妙手で捨て置けば二一へ歩をなられますから○同金三三歩(成)○同桂此時三三歩(成)時同金と取りても同銀でも三四歩(打)で宜し三三歩(打)○四四歩で角路を留める三三歩(成)○同金四四歩○同銀四五歩○五三銀(引)三七桂でよろし前文に立ち戻り春二。三。金の所ろ五五歩と指して見ませふ下手方同角と同步と取る手があります。
 同角と取る時は○四四歩同歩○二三金二二歩○同金三三歩(成)○同金二二歩(打)○四四金で下手としては面白くありません又同角と取らず。
 春同步と取つて見ませふ○二三金二二歩○同金三三歩(成)同銀ならば三四歩(打)同金なれば二二歩でよろし故に○同桂三四歩○四四歩三三歩(成)○同金四四歩○同銀四五歩○五三銀三四歩にて五四の歩突出す含ありて下手方大によろし。

第二章 二枚落 銀多傳

前局に於て説明致しましたる所は反て重複となり讀者諸君に煩雜ですから新しき所を説明致しませふ。○六二銀七六歩○五四歩四六歩○五二金(右)は金を繰り出して早指しに角の頭を攻撃するのであります。四四歩○五三金三六歩は桂を捌きて四五歩を繋ぐ意味もあります。○六四金四八飛は四筋より攻めんとするのです。五三銀三八銀○四二銀と五三銀を繋ぎます。四七銀○六二王五六歩○六五金は七六金と歩を取り角の頭にかゝるふとするのであります。七八飛と振ります。○七四歩六八銀○三二金五七銀○二四歩六六歩は角道を覆ふて悪手の様であります。下手からじりじりと指し込んで上手を手づまりとなし自然の勝を得る趣意に基づいて斯く指します。○六四金四六銀上手は他に良い手ありませんから○七三桂五八金(左)○九四歩四八王と堅固にする。○二四歩三三王○八五歩九六歩○一四歩一六歩○二三金四七金○四四歩同歩○五五歩で盤面の圖となりました。此時下手方より1.同銀と取る手と2.同歩の手があります。
 (1)同銀と取れば

○同金 同歩 ○六四銀 五四金(打) ○五二銀(打) 九七角にてよろし。
 又(2) 同歩なる時は ○四四銀 五六金 ○
 四三銀 四五歩 ○五三銀 六八飛 ○
 七五歩 六五歩 ○七四金 六六金 ○
 七六歩 七五歩 八四金 七六金 ○
 五二王 四四歩 ○同銀(右) 六四歩 ○
 同歩 同飛 ○八三金 五四歩 ○六三
 歩(打) 六八飛 ○四五歩 五五銀 ○同
 銀 同角 ○五四銀 七七角(引) ○六五
 銀(打) 五五歩 ○七六銀 五四歩 ○七
 七銀(成) 五三銀 ○四三王 六三飛(成)
 にて下手完全の勝也。

第三章 一枚落

○六二銀 七六歩 ○五四歩 五六歩 普通なれば 茲で 四六歩と突くのですが 急が

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	角	歩	歩	歩	歩	歩	香
香	桂	角	歩	歩	歩	歩	歩	香
香	桂	角	歩	歩	歩	歩	歩	香
香	桂	角	歩	歩	歩	歩	歩	香
香	桂	角	歩	歩	歩	歩	歩	香
香	桂	角	歩	歩	歩	歩	歩	香
香	桂	角	歩	歩	歩	歩	歩	香
香	桂	角	歩	歩	歩	歩	歩	香
香	桂	角	歩	歩	歩	歩	歩	香

下手方
特駒歩

すに緩々と攻撃の意味であります ○五三銀は五筋の守り 四六歩は若し此時敵
 が四四歩と受けぬ時は四五歩と位を取る意もあり 四四歩 四八銀 ○四二
 銀 三六歩は桂の捌きを附ける手でありまして 最も肝要なる手であり 四
 三銀は四筋の守り 四七銀 ○七二金は角頭を遙に覗い且つ七筋の防備 五八金
 (右)は王を守る爲め ○七四歩は金桂の捌き 三七桂 ○三二金 二六歩は飛車先
 り襲撃する意を示したのであります ○五二王は居王では指し悪いから先ず大將
 自身も戦闘員として中居住いをしたのです 二五歩 ○三四歩 四五歩は取れば
 一一角へが成りますから ○三三桂と登る 四四歩と烈しく攻むる ○同銀(右) 四
 五歩と位を取る若同桂と取れば同桂同銀 一角なる 四六歩(打) 三八銀 五六銀 四八
 香(打) 五五桂(打) 四四桂(打) 同銀同龍馬にて宜し ○五三銀(引) 六八銀と繰る ○七三金
 上手も猶豫出来ませんから七筋に金をよります 五七銀 ○六四金 四六銀 ○六
 五金 七八金と守る ○八四歩 六九王と一度王を堅固にする ○八五歩と肉薄し
 て参りましたこちらにも 三五歩と突いて戦闘にかゝります之で盤面の圖となり
 ました。

上手方此時如何指しませよ最早や之で潰滅でありますが先ず

一 同歩と取る手と

二 七六金と行く手を述べませよ

(一) 三五歩と取れば

二 四歩勿論同歩と取らねば為りま

せん 三五銀(春)三四歩 四四歩と突

きます若し此時四四銀と指せば五五歩

同銀同金同角六四銀(打)にて手順後れま

すから四四歩の方が慥な本手です 〇三

五歩 四四歩(成) 〇同王若し同金と取れ

ば二四飛でよろし 〇二四飛 〇二三歩(打)

三四銀(打) 〇五二王 〇二三銀(成)にて下

手方必勝であります

又前文に戻り(春)三四歩の所 〇五五歩と角路と塞ぐ時は 〇二四飛 〇二三歩(打) 〇七

三五歩マデノ局面

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	羽			王		馬		皇
				歩	歩	歩	歩	歩
				歩	銀			
				歩	銀	桂		歩
				歩	金		飛	
				歩	金			香
				歩	角			
				歩	桂			
				歩				香

下手方

四飛 〇六二王 〇三四歩(打) 〇七三歩 〇八四飛 〇七二王 〇三三歩(成) 〇同金 〇九五桂
 (打)にて大に宜しいのです

(二) 〇七六金なる時は

二 四歩(二四歩突)かすに四四歩と指しますと同銀(右)三四歩八六歩三三歩(成)八七歩(成)同金同金四四角同銀三二とで飛車の出が封せられて悪いから二四歩を先に致します 〇同歩 〇四四歩 〇同銀(右) 〇三四歩 〇八六歩 〇三三歩(成) 〇八七歩(成) 〇同金 〇同金 〇四三と 〇同金 〇四四角 〇同金 〇二四飛にて完全なる勝であります

第五編 飛香落 通俗一丁半

二枚落の次に横はる難關は飛香落で有ます角と云ふ驍將が控へて居りまして並一通りの苦勞では抜けませんと申しましても飛香の落ちて居るのですから上手の良からふ筈は有ません下手にして良く定跡を習得し其急所急所を指すれば上手をして軍門に降服せしむる事容易であります定跡の教へに隨いて無駄手を指さず除るに勝を制する事が眼目で有ます

第一章 飛香落 (上手角替り 端飛廻り)

○三四歩▲七六歩○三二金▲三八銀○七二金▲二六歩○六二銀▲一六歩○八八角▲同銀○二二銀▲七七銀○五二王▲二五歩○三三銀▲六八金○七四歩▲六九王○七三銀▲七八王○九四歩▲一五歩○六四銀▲一八飛○(花)七五歩▲同歩○同銀▲一四歩○同歩▲一二歩(打)○二二角(打)▲一四飛○一三歩(打)▲一六飛○三五歩▲三六歩○三四銀○三七桂▲三六歩○同飛▲三五歩(打)○一六飛▲四四角(香)。

〔講義〕○三四歩此際最も廣い手で有ます▲七六歩は上手方より角を交換すれば同銀で一手の徳を爲し且つ己の方には角打の痛もないが上手方には飛香が無くて角打の痛があつて下手の徳で有ますから此所上手方四四歩と角道を留めて指すが普通ですが奇謀に出まして何時にても角替の出来る様に○三二金と指しす之決して本筋の手では有ませんが下手の悲しさに無理手に拘らず力負けして紛されますが決して恐るる所は有ません▲三八銀で角替られても打込みの隙を消します○七二金は中居住いの準備▲二六歩は飛車の援護で歩兵を進めるもの○六二銀は七筋より歩を變りて指しこむ意味▲一六歩は香の無い隙を狙ふので

飛香落では此歩突は遅れては爲りません上手も安閑として居ると指しこまれるから○八八角と角替りと爲る▲同銀で○二二銀と上つて置ますこちらも▲七七銀を上る末に王の護衛とも爲ります○五二王は中居住いと申しまして最も簡略な組方で敵を早く攻撃が出来ます此手は後編の飛落の章に詳説して有ますから御参照を願ます▲二五歩次に上手外の手を指すと二四歩同歩一二角(打)が有ます故○三三銀登る▲六八金と早く締める○七四歩は銀と繰り出す準備▲六九王○七三銀▲七八王と堅固に圍ふて置ます○九四歩は端の位取りで九六歩と普通は受けるが今の所斯かる不急の手を構はずして▲一五歩と有利なる方面に一歩を踏ふ入れます九六歩では端蒐りが一手遅れます○六四銀で▲一八飛と廻るは端歩を換り一二歩(打)の味が有ります○(花)七五歩と突けば▲同歩○同銀で七六歩など相手に爲てはいけません本筋に▲一四歩と衝蒐ります○同歩と應ずる此のとき下手一三歩(打)ならば二二金一四飛一三金一六飛一四歩(打)二四歩は何れの駒を取つても二二歩(打)が有りますから六四銀と引かれて餘り面白くありませんから▲一二歩(打)と行きます二二銀なれば一歩(成)同銀で五五角(打)有れば據所なく○

二二角と落ろす▲一四飛□一三步(打)▲一六飛と中段に引ます手廣くして利道がよろしいのです□三五歩は桂勿ねを留むる意ですそれ故▲三六歩と突きます□三四銀三五歩と突く手も有ますが▲三七桂と穩に上ります□三六歩▲同飛□三五歩(打)で二六飛なれば四四角で紛れ形ですから▲一六飛と廻ります是にて盤面の圖となました次に變化を述べます。

盤面以下之指方 第一節

(香)□四四角▲五六角(打)□三三金▲一一步(成)□三六歩(打)▲四五桂□三二金▲二一

と

(香)□四四角之所

□七六歩(打)▲同銀□九九角(成)▲七五銀□八八香(打)▲七七桂□八九香(成)▲六九王□八八龍馬▲五八王□七九成香▲六五桂□七八成香▲同金□同龍馬▲五五香(打)□四二金(香)▲三一角(打)□六二金(香)▲五六飛 第二節

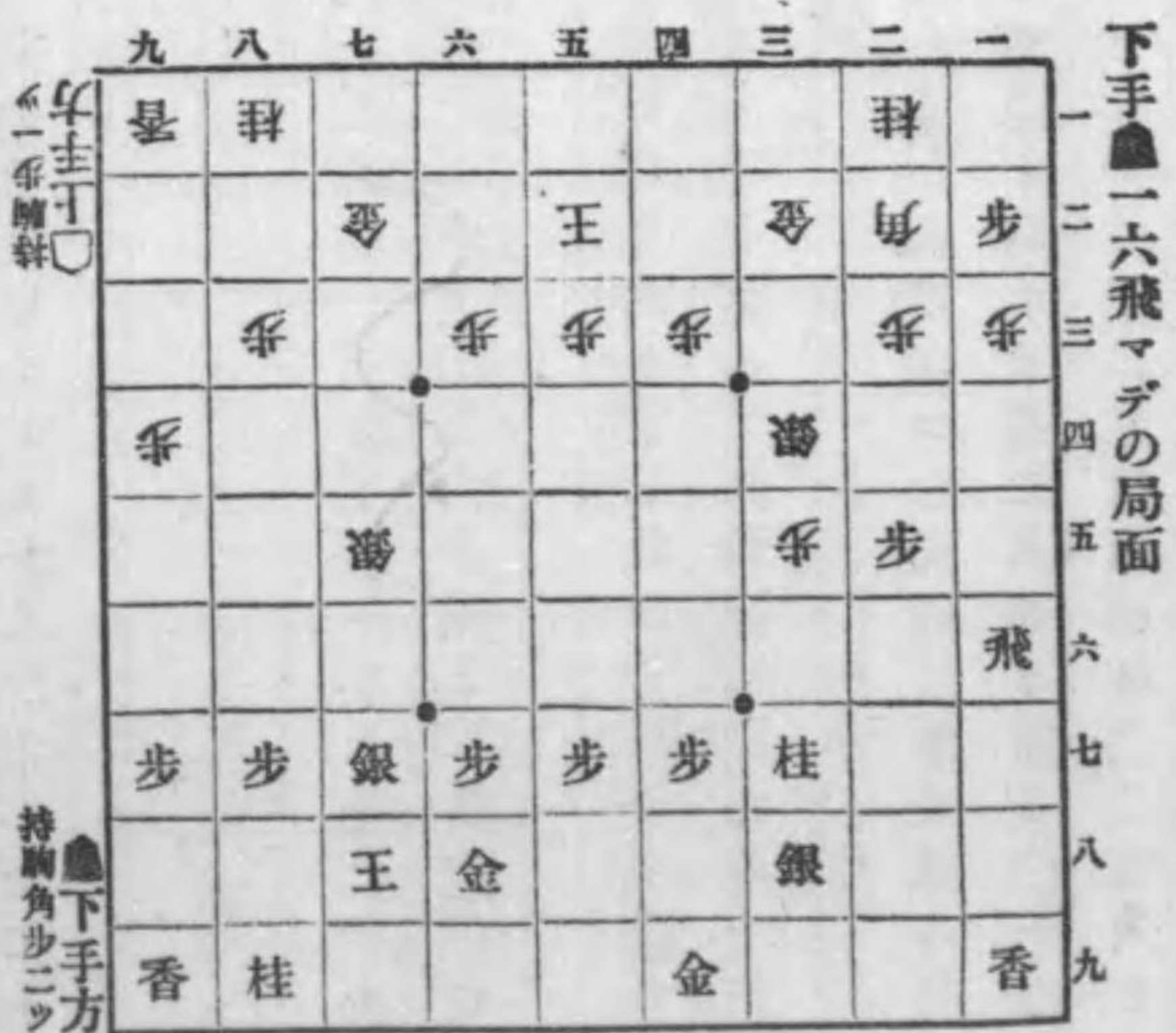
【講義】最初□四四角の手から説きませふ▲五六角(打)は致命傷で有まして應手に苦しみます□三三金と出るより致方は有ません透かさず▲一一步(成)で□三六歩

と仕方なしに突く▲同飛と取る□三五銀と進む▲一六飛と寄ります□三六歩(打)

▲四五桂と勿ねられ余儀なく□三二金

(引)▲二一とで上手より指すべき餘地なく完全なる勝で有ます 第二節

次に(香)四四角之所□七六歩(打)と行つて見ませふ八八銀(引)の手も有るが強く▲同銀で□九九角と成らせませす▲七五銀で銀香の交換と爲り角を成らせて損の様で有ますが手順を讀切れば決して不利では有ません□八八香(打)で▲七七桂と避けて置く□八九香(成)で穩かに▲六九王と逃げて置く□八八龍馬で最一つ▲五八王と越して置ます□七九成香と密せて來ること▲六五桂と敵の王の頭に近寄りませす□七八成香▲同金□同龍



馬で▲五五香(打)之は五六香など打つと飛車道を留めて面白く有ません○四二金と守る▲三一角(打)と猛烈に肉薄する五三香(成)で叶いませぬから○六二金(寄)▲五六飛で凌ぎはありませぬ。

盤面以下之指方 第三節

(春)○四四角之所

○四四歩▲一歩(成)○同角▲一四歩(打)○三三角▲一三歩(成)○一五歩▲二六飛○一三桂▲一四歩○二五桂▲同桂○二四角▲一三歩(成)○三六歩▲三三歩(打)○四二金▲二三と○三五角▲三六飛

【講義】○四四角之所七六歩と行きまして上手の破れと成りましたから外の手順を説きます○四四歩は下手より五六角と打たる、手を嫌ふて其豫防に指したので若し五六角と打てば四五歩同桂四三金にて防がれます▲一歩(成)○同角と取らせて▲一四歩と打ます同歩なれば同飛で角呉れるか銀貰ふかの大變な手と成る故○三三角と防ぐ▲一三歩(成)で○一五歩(打)と飛道を留める▲二六飛と寄る○一三桂▲一四歩(打)桂取られて成られては叶いませぬから○二五桂▲同桂○二四角と上る▲一三歩(成)○三六歩は角の捌を附たもの▲三三歩(打)で金を○四二金と寄せ

て▲二三と進む同銀なれば一三桂(成)で尙悪くなる故○三五角▲三六飛で上手手詰りて下手方の勝で有ます。

變化花 第四節(初めに立戻り二十五手目)

(花)○七五歩之所 (第二圖)

○四四歩▲一四歩○同歩▲同飛○一三歩(打)▲一六飛(夏)○七三桂▲一二歩(打)○二二銀(引)▲二六飛○三三金▲四六歩○九五歩▲四七銀○八四歩▲五六銀○三五歩▲四五歩○同歩▲二四歩○同歩▲一歩(成)○同銀▲四五銀○四三歩(打)▲四四歩(打)○二二銀▲一六角(打)○二五角(打)▲同飛○同歩▲四三歩(成)○同金▲四四歩(打)○四二金▲二五角○六二王▲四三歩(成)○四一金▲四二歩(打)○五一金▲三四角(打)○七一王▲五二と。

【講義】上手七五歩突かず○四四歩と指して見ませぬ之は四三角と筋違角を打つ含で有ます▲一四歩と機先を制して端に蒐ります○同歩▲同飛○一三歩(打)で▲一六飛と引いて横を通します○(夏)七三桂は時機を見て王頭に蒐るふとするので有ます茲二二金の手も有ますが後節に説きます▲一二歩(打)で○二二銀と引かせ

ます 二六飛と方面を變更する二四歩を切らせては悪い故 三三金と防ぐ四六歩は銀繰りの準備 九五歩は端指しの意 四七銀上手も別に良い手も無いから 八四歩と衝て下手の趨向を窺ます 五六銀と上る此末三六歩で桂を捌かれては宜敷くない故 三五歩と突く愈々 四五歩と戦鬪を開始する 同歩 二四歩同金なれば 三二角(打)が有ますから 同歩 一歩(成)同銀と取らせて銀を離して置ます 而して 四四銀と出る 四四歩と打てば同銀と取られるから 四三歩(打) 四四歩(打)で銀の離れが有つて指くにいから 二二銀と繋いで置ます 一六角(打)は棄て置けば 四三歩(成)同金 四四歩(打)で悪いから 二五角(打)と受



ける同角では面白く有ません 飛車を見切つて 同飛 同歩 四三歩(成)同王なれば 六一角(打)が有故 同金 四四歩(打) 四二金 二五角間駒利かすですから 六二王と逃げる 四三歩(成) 四一金 此 四一金退かすに 二八飛(打)時は 四二と 二五飛(成) 四三角(打)にてよろし 四二歩(打)で 五一金と退かせまして 三四角(打)棄て置けぬから 七一王 五二とで下手勝て有ます。

夏の變化 第五節

(夏)七三桂之所

二二金 二六飛 七三桂 四六歩 九五歩 四七銀 八四歩 五六銀 三二角(打) 四五歩 同歩 四四歩(打) 同銀 一角(打) 三三銀 一三香(成) 同桂 一四歩(打) 四二王 四四銀 一一金 三三角(成) 同王 四四銀(打) 四二王 一三歩(成) 同金 三四銀 五二王 三六飛 三一歩(打) 四三銀(右) 六二王 三三飛(成)

(講義) (夏) 七三桂の所 一二歩(打)を忘れて 二二金と疵を消して見ませふ 二六飛と位置を變更致します 七三桂と敵の様子を偵察する 四六歩は銀を繰り出

す準備○九五歩▲四七銀と上る○八四歩は他に良手も有ません故突いて王の頭を遠く狙います▲五六銀は進撃の意味もあり場合に依れば六六歩衝き六七銀と引いて堅く守る意も有ます○三二角は筋違角で銀桂の遊軍と協力して王頭に蒐る意味下手も猶豫は爲らん故▲四五歩と衝蒐ります○同歩▲四四歩(打)で棄て置く○四三角の手が有ますから○同銀で▲一一角と降ろします▲三三銀と引かせて▲一三香(成)と激しく迫る○同桂▲一四歩(打)で一二歩(打)と受ますと一三歩(成)同歩四四桂(打)が有から○四二王と寄ります▲四五銀次に三四銀と来られては叶いません故○一一金と角を殺しに行きます▲三三角(成)○同王と取らせて▲四四銀(打)の王手を掛ける○四二王▲一三歩(成)○同金▲三四銀で棄て置けぬ故▲五二王と越せば▲三六飛と廻ります茲で上手より二七角なれば四三銀(右)と成りこまれま
す故○三一歩(打)▲四三銀(右成)○六二王と越せば▲三三飛(成)で末は寄りて有ます

第二章 飛香落 上手二三角留め 下手居飛車

○三四歩▲七六歩○四四歩▲二六歩○三二金▲二五歩○三三角▲四八銀○四二銀▲五八金(右)○五四歩▲五六歩○四三銀▲六八王○六二王▲七八王○七二王▲

四六歩○六二銀▲六八銀○五三銀▲六六歩○六四銀▲四七銀○五五歩▲同歩○同銀▲五六歩○六四銀▲六七金○七四歩▲三六歩○六二金▲九六歩○九四歩▲三八飛○八四歩▲一六歩(盤面の圖)

【講義】○三四歩▲七六歩は普通の手次に上手方○四四歩は順序の手で有まして前章に説きました故茲に述べません▲二六歩は飛車の授護に依り歩兵を進むる所○三二金は二筋の備へ▲二五歩で上手方歩を切られては損です故○三三角と上ります▲四八銀は順序の手○四二銀▲五八金(右)で何時急指しに来られても玉頭を堅く致して置ます○五四歩は位取り▲五六歩は負けず劣らず位取り致しましたので此所四六歩の手も有ますが上手を手詰りにする趣意で斯く指します○四三銀は五筋四筋の守り▲六八玉は王を安きに移さんとするので總じて居玉は亂れ將基と爲ると力の足らぬ者には不利益です○六二玉も同意味▲七八玉○七二王で▲四六歩と衝いて銀の働を附けます○六二銀と戦線に出る▲六八銀○五三銀と上る▲六六歩は吾より角道を留めて其活動を防止する嫌が有ますが位を好くして自然の勝を得る趣意で有ます○六四銀は攻守兼用の手▲四七銀○五五

歩同歩○同銀五歩○六四銀と引く○六七金で櫓模様組上ます○七四歩は桂の捌き○三六歩も同意の外に飛車を振る含も有ます○六二金と締める○九六歩は端の位と共に角の覗きも有ます○九四歩○三八飛と廻る○八四歩○一六歩と薄い端を狙います之で盤面圖と爲りました。

盤面以下之指方第一節

○八五歩○三五歩○同歩同飛○三四歩(打)○三六飛○七三金○七七銀○八四金○七九角○七五歩同歩○同金○七六歩(打)○七四金○一五歩○五三銀○三七桂○六四歩○四五歩○六二王○五五歩○五二王○五六銀○二二角○一六飛○(香)四○五歩○三三歩(打)○三一金(引)○二四歩○同歩○一四飛○一三歩(打)○二四飛○三三角○二三飛(成)○二二金○二七龍

〔備註〕最初上手方○八五歩下手の玉頭を攻める含みで有ます○三五歩と飛先から戦を始める○同歩同飛○三四歩と打たれます八五飛と横歩を取ると七三桂八四飛八三歩(打)七四飛で下手として面白く有ません故○三六飛と退る○七三金は力指しの意味○七七銀と玉頭を堅く防いで置ます○八四金○七九角は方面を變更して角の活動を計るもの○七五歩と衝蒐ります同歩○同金軽く○七六歩

(打)で○七四金と引かします○一五歩は薄き端の仕蒐と共に中段飛車の活動を良く致します次に上手五一角と繰り變へますれば一四歩同歩二歩(打)なれば三三角で紛れ形ですから四五歩同歩一四歩同歩同香で宜し故に五一角は引けません故○五三銀と引落して一先ず陣形を整へます次に四筋攻撃の意味が充分ですから○三七桂と攻守兩様に上つて置ます此時上手方別に良い手も有りませんから○六四歩と幾分王を廣く致します○四五歩と愈々攻勢に移る之は其時機宜しきを得たる者で己の排陣の定まれる以上攻勢を取る可き者で大事を取り過ては負に爲ります四五歩は勿論同歩とは取れませんが上手は殆んど手詰りで六五歩な

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	王	銀	金	飛	桂	香	
歩	角	王	銀	金	飛	桂	香	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	

上手方一六歩マアノ局面
持駒ナシ

れば同歩七三桂四六角と上られます又夫を嫌つて六三王なれば一四歩と突かれ桂香の交換と成り五五に桂を下されまます故是も立てません仕方なく□六二王と繰る次に下手一四歩同歩同香一三歩同香(成)同桂同角(成)三五香にて面白くなし故に一四歩の合を殘して慎重の態度を執り五五歩と位取りして敵の趣向を覗ふ次に上手五四歩ならば同歩同銀五五歩にて後手と成ります故□五二王と避けまます五銀と盛り上る□二二角は此儘では四五歩が取れません故引いて端の防ぎと兩様の意味で指します▲一四歩□同歩此時一三歩(打)の手も有ますが同角で餘り面白く有ません故に試みに二四歩と突いて見ませふ同歩一三歩(打)同角なれば一四香走ります故同桂一四香一二歩(打)一六飛二三金と守る二五歩(打)同歩四四歩同角二四歩(打)二二金一三香(成)同歩二五桂一一香(打)二三歩(成)同金一三桂(成)三五角で下手方紛らされます穩しく▲一六飛と廻ります□(成)四五歩此時三三角なれば四四歩同銀(成)四五桂二二角三三歩(打)三一金なれば二四歩の手が有る故同桂同桂同銀にても一四飛で凌ぎは有ません▲三三歩(打)は面白い手です何れの駒でも取れぬ故□三一金(引)▲二四歩□同歩で▲一四飛と出ます□一三歩(打)▲二四飛で□

三三角と守る▲二三飛(成)□二二金▲二七龍と引きまして下手より四五桂飛の手順もありて勝て有ます。

夏の變化 第二節

(夏)□四五歩之所

- 七三桂▲二四歩□同歩▲二五歩□同歩▲一四飛□一三歩(打)▲一六飛□六五歩▲二四歩(打)□六六歩▲同銀□六五歩(打)▲七七銀□六四銀▲二三歩(成)□同金▲二四歩□三三金▲二五桂□三二金▲三三歩(打)。

(講義)□四五歩と取まして三三歩打たれ上手の負と成りました故□七三桂と出て見ませふ▲二四歩と突蒐ります成られては金が逆になるから□同歩▲二五歩と合します矢張り取込ましては悪い

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	角	金	銀	歩	歩	歩	香
香	桂	角	金	銀	歩	歩	歩	香
香	桂	角	金	銀	歩	歩	歩	香
香	桂	角	金	銀	歩	歩	歩	香
香	桂	角	金	銀	歩	歩	歩	香
香	桂	角	金	銀	歩	歩	歩	香
香	桂	角	金	銀	歩	歩	歩	香

故○同步そこで▲一四飛と出る○一三步(打)で温和に▲一六飛と退く上手も猶豫
 出来ぬ故○六五歩で一か八か戦を始める▲二四歩(打)○六六歩で始めて▲同銀と
 取る○六五歩(打)▲七七銀と引いて居ます此時四五歩なれば二三歩(成)同金二四歩
 (打)三三金で二五桂捌ねる三三金で三三歩(打)同桂なれば一三桂(成)で破れで有ます
 故○六四銀と盛り上る▲二三歩(成)で金の位置を悪身に致します○同金▲二四歩
 で○三三金より致方ありませんそこで▲二五桂○三二金▲三三歩(打)にて前の手
 順と同様で下手方完全の勝で有ます。

第六編 飛車落

元來將碁道に於きまして駒を落して指ます時に落した方即上手方が勝つ譯は
 無いので有ますが事實は之に反して尙上手の勝に歸するのは上手の枝の秀逸な
 るより寧ろ下手が攻守の理に暗き爲めであると思ひます已に飛車一枚で六段の
 差があるのですから末の別れに於て上手方に考へこまれると充分手順を讀みき
 られまして悲しいかな負になるのであります之に勝たんとするには何と申へ

ましても定跡に據る外は道はないのであります。一局の詰を研鑽するのも名人の
 指將碁を試むるも力強くなる一法に相違ありませんが先ず第一に研究すべき最
 も緊要なる問題は定跡の熟達にあると斷言致します。斯く研鑽致されるならば曾
 ては中押で負けたのが此度は假令負けるにせよ上手をのつびきならぬ危地に落
 し入れると云ふ様な譯で終には勝が見ゆる様になるのでありますから此所よく
 よく御考への上御研究を願います。

第一章 飛車落 中居住い

- 三四歩▲七六歩○三二金▲四八銀○七二金▲五六歩○六二銀▲五七銀○七四
- 歩▲九六歩○七三銀▲五五歩○六四銀▲五六銀○四二銀▲四六歩○三三銀▲三
- 六歩○五二王▲五八飛○一四歩▲四八金○一三角▲四七金○三一角▲三七桂○
- 九四歩▲一六歩○四二角▲六八金○五一角▲六九王○八四角

(盤面之圖) 第一節

【講義】此中居住い即五二王繰りの手は上手の組駒が手数少く角替り又角替らす
 の指方もありまして決して良い手ではありませんが下手方多く瞞着され安いの

ですから良く御習熟を願います。
 □三四歩 飛七六歩は普通の手茲で一般に四四歩と角替りを留めて指すが習なれど上手方奇謀に出でて角替れと□三二金と指します茲で狼狽て角を替へては駒組の出来ぬ先に上手に角を打たれ力も六段の差があるのですから甘く角を落されて粉らされぬにも限りませんから 飛四八銀と指します□七二金は中居住いの趣向であります 飛五六歩は五筋位取て意味が廣くあります此時上手方五四歩と應じますと下手は直に中飛に變じますから突けません□六二金は備へより末に角先を攻める含もあります 飛五七銀は早立ちの意味並に飛車を活用する趣向であります□七四歩 飛九六歩は端の位取り□七三銀は七五歩を突き替り早く仕懸る意味 飛五五歩は五筋の天王山を乗り取ました取返さんと□六四銀で取られては堪りませんから 飛五六銀と保護します□四二銀は王頭を守り後繰り上る考へ 飛四六歩は末に上手より四四へ銀が上る手順になりますから豫め位を取り置ます□三三銀 飛三六歩を上手の銀の進路を遮つた手で有ます此時上手から七五歩は突く事は出来ません若し突けば七五歩同步同銀七八飛七六歩(打)なれば六五銀

又七六歩の所七四歩六五銀七三金五四歩同步五三歩(打)で宜しくありす尙奥を申上るなれば四二銀(引)二二角(成)同金五八飛(番)五三銀五四銀同銀同飛五二歩(打)五三歩(打)で勝であります又(番)五三銀の所四一王なれば六一角(打)にて宜し。
 又(番)五三銀の所六二王なれば五四飛(夏)五三銀五一角(打)五二王五三飛(成)同王五四歩(打)五二王ならば七三角(成)四四王四五銀(打)五五王七三角(成)六五王七七桂七六王七四龍馬で勝也(夏)五三銀の所五一歩(打)二六角(打)四四角(打)五二歩(成)同步四四飛同歩四四角七二王二二角(成)五七飛(打)五八金(左)二七飛(成)三九金三六龍三七金(打)二五龍二一龍馬で自然の勝と爲ります右の通りの結果と爲りますから七五歩は突ませんから□五二王で愈々仲居住の体を現しました王の正面を紛碎する考へで 飛五八飛□一四歩は端の位と共に角の覗きも有ます普通は一六歩と受るのが順で有ますが 飛四八金と強く立つて見ます□一三角と上り 飛四七金と釣り上げて置きました□三一角で王の頭を守ると見せます 飛三七桂と刎ねる□九四歩は下手の趣向を窺ごふのであります 飛一六歩□四二角は繰代へる手順下手方も上手が五二王と手数少く繰りました以上王を圍ふのに手数をかけましたは夫がため攻

飛車を受けて他の手が遅れますから手数少く六八金を締めて王の守備を為します。五一角は八四角と覗いて下手を紛さんとするもの。六九王は八四角と立たす意味上手は含通り八四角と立ちました下手は之から如何指しませふ盤面以下の指方に於て詳説致します。

盤面以下の指方第二節
 五九飛○七五歩同歩○同銀五四歩○同歩六五銀○六二金五三歩(打)○四一王五四銀○六四銀四五六桂○四四銀六六角○同角同歩○三八角(打)五八金(寄)○二七角(成)二二歩(打)○三三桂四八金(寄)○二六龍馬二一歩(成)○四五桂六三銀(成)○五八歩(打)二九飛○六三金五二角(打)○四二王六三角(成)○二七桂(打)五二歩(成)○三三王六四龍馬○六七銀(打)二五歩○二五龍馬二七飛○二四歩二五飛○同歩五一角。

盤面以下之指方第二節
 下手方の手番であります角に成られては堪まりませんから五九飛と引きます。七五歩同歩二こで角で出る手もあります。同銀と指して見ませふ五

四歩と衝突します。同歩より詮方もありません。六五銀と立ちます。六二金と寄りまして防禦を講じます。五三歩(打)同王でも同金でも四五桂と進まれます。から四一王五四銀次に上手七六歩(打)ますれば四五桂四四銀五二歩(成)同金四四角同歩五三銀(成)五一步(打)四三銀(打)にて下手の勝になります。から六四銀四五桂と刎ねます。四四銀六六角と交換を迫ります。逃げては弱いから同角同歩而して。三八角(打)そこで金を與れませんか。五八金(寄)此時四八金(引)では角が七四に成りまして活動し面白くありません。斯様な所はよほど沈重なる態度を取らねばなりません。二七角(成)二二歩(打)同金と取れば四三銀と

飛車落八四角マダの局面

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	銀	王	飛	金	歩	桂	歩
香	桂	銀	王	飛	金	歩	桂	歩
香	桂	銀	王	飛	金	歩	桂	歩
香	桂	銀	王	飛	金	歩	桂	歩
香	桂	銀	王	飛	金	歩	桂	歩
香	桂	銀	王	飛	金	歩	桂	歩
香	桂	銀	王	飛	金	歩	桂	歩

下手方

成られますから三三桂と逃げる▲四八金(寄)は一は角を脅かし一は飛道を開ける
 攻守兩様の穩しき良手であります□二六龍馬は逃げぬと二九飛で取られます▲
 二一歩(成)□四五桂の時下手は桂を取つたり致しますと手が遅れますから▲六三
 銀(成)と激しく肉迫します□五八歩(打)で飛道を留めます▲二九飛を龍馬に當てる
 □六三金若し六三金の所五三銀(右)なれば六二成銀同銀二六飛にてもよろし又六
 三金の所四八龍馬六二成銀五一歩(成)七八王四二王五二歩(成)三三王五一角(打)□
 桂同と同金二五桂で下手の勝でありますから六三金と取りました▲五二角(打)□
 四二王▲六三角(成)で上手は窮地に陥りましたが兎角飛先の防ぎに□二七桂と間
 をして見ます▲五二歩(成)□三三王で次第に逃場を失ふて參ります▲六四龍馬と
 銀を拵へます□六七銀(打)は上手は最早如何手腕を施すとも防禦は叶いませんから
 敵地に縛り手を打ました▲二五歩で捨をけば四二銀(打)で詰みますから□二五龍
 馬と行きます▲二七飛□二四歩と龍馬を繋ぐ鋭く二五飛と切ります□同歩▲五
 一角(打)で上手は詰となるのであります。

第二章 飛車落居飛車引角

欠

欠

す意味○同歩▲四五歩(打)で○六二角と引きます▲四六角で歩を掠めます○四四歩は位を取り戻す含み▲三七桂と登ります○四五歩▲同桂○同桂▲同銀茲で○四四歩(打)▲五六銀○七四歩は角の覗きの意味もあり又七三銀と引き落して王頭を守る含みもあります▲一六歩は一五歩と突き角の狙を利用して端に奇襲を企てんとする意味○九四歩は王を廣くしたので有ります▲一五歩は棄て置くこと一六歩と突かれて破れと爲りますから○二二金と寄ります茲で透かさず▲二四歩と合します○同歩▲同角で棄て置ば四二角と成られて敗れますから○三三桂(打)と茲を先途と極力防備致します茲で角を四六角など引きましては其人は大駒許り大事がる人で玉を詰める氣のない人です強く▲三三角(成)と指します○同金▲二二飛(成)○三二金と引く▲一一龍で上手には下手に對して乗すべき所とてなく角一枚で致方ありませんから○五一步で固く己が陣地を守る此所無闇に王の横から破ろふとすると上手の力で受止められますから方面を換へて▲七五歩と王の頭から碎きに保ます上手は意外の奇襲に致し方なく○同歩と取る▲七三歩(打)と激しく迫ります同桂なれば七四歩で悪いから○同銀▲六五桂と打つ銀を取ら

れては大變ですから○六四銀と登る六四銀の所七四銀爲れば七三步(打)同桂同桂同王六五桂八二王八六桂八五銀七五銀七三步七四歩にてよろし(七)七三步(打)の時同桂なれば七四香でよろし○七一五(七)七四桂(打)にて最早や凌ぎはありません下手の大勝利であります。

第七編 角行落

角落定跡は古來より幾多の名人上手に依りて補習研鑽され現在に於て澤山残つて居ります飛落に比しては又一段と指難くなるので有ます最も良く行はれて居る指方は下手左三間で玉を美濃に組む指方と櫛圍いの指方で有ます以下講述致します。

第一章 角落下手方櫛模様圍方

○六二銀(七)七六歩○五四歩(七)五六歩○六四歩(七)六六歩○九四歩(七)七八銀○四二五(七)五八金(右)○三二王(七)四八銀○五二金(七)六七金○五三銀(七)四六歩○六三金(七)四七銀○七四金(七)三六歩○六五歩(七)同歩(七)同金(七)七七桂(盤圍い爲る)

〔講義〕○六二銀は先づ守勢を取りまして敵の作戦を窺ふたので有まして最初に八四歩七六歩八五歩七七角の順に指し出しますと敵に櫛圍いをせられ上手八五歩は吾が桂の進路を遮断して櫛崩しの意味が消へて面白くなし總じて落し方より吾力を廻んで初めから攻勢を取るのには戦略を誤りますから本文の如く指します(七)七六歩は角の活用の意味○五四歩は重要地點を點めたので敵の襲撃に際し吾が駒組みの都合も宜し(七)五六歩と敵に劣らず吾駒を進める(七)六四歩は位取り及び七筋に駒繰りの意味(七)六六歩は手が廣ふ有ます飛車を七八に廻りて七筋飛車も指せ又居飛車櫛の意味もありて如何とも變化出来るから上手も軽々しく手は落されぬから當り障りの無き様に(七)九四歩と衝き様子を偵察する九六歩と應ずれば本組に爲りますが櫛の意味なれば端歩を伸す必用はありませんから(七)七八銀と櫛の本体を表す上手も茲で始めて(七)四二王と櫛模様と認めて左方に(七)四五銀と櫛の準備をすなはなかなか策戦に苦心を要し且つ興味を存する所であるから初心の御方によくある(七)輕卒に駒を動してはなりません(七)五八金(右)は櫛の準備(七)三二王は堅固にしたので有ます(七)四八銀は駒の配備に前後厚薄なき様に組んだので無暗と王を圍ふは宜しく有ません(七)五二金(右)は七二金の手も有ますが早指し

に備へて斯く登ります。六六七金は敵に早指しの意味も充分あるから先ず六筋の守りをし且つ勿論構圍いの意味もあります。五三銀は守り、四六歩は四四銀と出た時其進路を止め又吾より進撃する意、六三金早指しの意、四七銀、七四金と登る、三六歩は桂はね及び飛車振りの意味、上手は愈々、六五歩と衝蒐ます。此所四二金と王を締めては七七桂と刻ねられ早指しの意味が消へるから六五歩を先にする、同歩、同金、七七桂以下の指し方色々ありますが、次章に述べます。(盤面圖)

盤面以下の指方第二節

○六六歩(打)ならば

角行落七七桂マデノ局面

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂				王	王	桂	香
	飛				王			
	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩
			歩					
		歩		歩	歩	歩		
歩	歩	桂	金		銀		歩	歩
	角	銀					飛	
香			金	玉			桂	香

九筋目(一歩) 七筋目(一歩) 五筋目(一歩) 三筋目(一歩) 一筋目(一歩)

六五桂、六六歩(成)、同銀、六四銀、六六歩(打)
 (香)五三桂(成)、七八と同金、三九銀(打)、五八飛、四八金(打)、同飛、同銀(成)、同玉、六九飛(打)、三八銀(引)、六四飛(成)、六三金(打)、六五龍、六六銀(打)、七六龍、七七金(上)、八五龍、七五金。
 (講義)今度は上手方の手番で有りますが先ず六六歩(打)から説きませふ。歩成りは棄て置きまして手強、六五桂と飛びます。六六歩(成)で此所五三桂成る手は後に説きます。(香)同銀捨て置く。桂を成られるから六四銀と上る。そこで穩やかに六六歩と打しても遙に下手方から仕懸の手多くして指良いのであります。前文に戻りまして六六歩(成)、(香)同銀の所。
 五三桂(成)ると力指しの意味で行つて見ませふ。七八とで同金と一應取つて置きます。三九銀(打)で飛車取れと爲ますから五八飛と開く。若し六八飛なれば五七金(打)の手で紛らしく成ます。四八金(打)同飛、同銀、同玉で如何上手と雖も飛車一枚で如何とも爲す能はず切であります。六九飛と打て見ます。三八銀(引)は軽くして好き手で有ます。六四飛(成)は防禦の手段桂を取られては叶いま

せんから▲六三金(打)で繋いで置く○六五龍▲六六銀と打つて後に憂の残らぬ様に固く指す○七六龍なれば▲七七金と上られ○八五龍より致方有ませんそこで▲七五金(打)で飛車を捕虜と爲して下手方自然の勝で有ます。

盤面以下の指方第三節
 ○六四金(引)▲六五歩(打)○六三金(引)▲七九角○九五歩▲五七角○七四歩▲六八王
 ○八四歩▲七九玉○八五歩▲八八王○八六歩▲同歩○同飛▲八七歩(打)○八二飛
 ▲六六金○四二金▲三七桂○四四歩▲二六歩○四三金▲二五歩○三四歩▲二四歩
 ○同歩▲同飛○二三歩(打)▲二八飛○三三桂▲二五桂○二二銀▲三三桂(成)○同
 銀▲五五歩○同歩▲六七桂(打)○五四桂(打)▲五五桂○六六桂▲同角○五四銀▲六
 三桂(成)○同銀▲五五桂(打)○五四銀▲四五歩○四二金(打)▲四三桂(成)○同銀(引)▲四
 四歩○同銀(成)▲四五歩(打)○同銀▲四四歩(打)○三一桂(打)▲五五金(打)○四六歩(打)▲
 四五金○四七歩(成)▲四三銀(打)○同桂▲同歩(成)○同金▲五五桂(打)第三節
 【講義】前節に於て上手方六六歩と打つて崩れましたから今度は○六四金と引
 いて指して見ませふ▲六五歩(打)は金を退けて位を取るのです○六三金(引)▲七九

角は方向を替へて活動の道を講じ又玉圍いの道を開く意味○九五歩は端の位取

り▲五七角は角の利道が廣くなり
 ○七四歩▲六八王は王を安全の位置に
 移さんとするもの○八四歩は飛先より
 攻撃を開始せんとする意味▲七九王○
 八五歩▲八八玉で玉は堅固と爲りまし
 た○八六歩と衝蒐る▲同歩○同飛▲八
 七歩(打)は普通の手○八二飛(引)は末に王
 の横の守備に整へた手▲六六金は力指
 しの意味此所で六二飛と廻られても六
 八飛を受けて障りはありませぬ○四二
 金は王の援護▲三七桂○四四歩は四五
 歩突かれて位を取られまい爲め次に下
 手より盤面圖参照四五歩なれば同歩同桂六二銀(引)四四歩(打)四三歩(打)三五角四四

上手四歩ノ局面

九	八	七	六	五	四	三	二	一
▲	▲					▲	▲	▲
						▲	▲	▲
						▲	▲	▲
						▲	▲	▲
						▲	▲	▲
						▲	▲	▲
						▲	▲	▲
						▲	▲	▲
						▲	▲	▲

▲玉 ▲桂 ▲飛 ▲歩 ▲金 ▲銀 ▲角 ▲桂 ▲歩 ▲飛 ▲香
 ○二歩▲一歩
 ▲二歩▲一歩
 ▲二歩▲一歩

歩同角四三金六二角(成)同金七一銀(打)七二飛六二銀(成)同飛五三銀(打)九二飛で下手方面白く有ません故に前文に戻り四五歩の所(成)二六歩と温和に出ます(成)四三金は王頭の護衛です(成)二五歩と肉薄する(成)三四歩は銀繰り桂捌きの意味であります(成)二四歩(成)同歩(成)同飛(成)二三歩(打)で二六又は二九に引きますと六二飛と振られて悪しくなるから(成)二八飛と引く(成)三三桂(成)二五桂で桂馬の交換を迫ります(成)二二銀は三三桂と来れば同銀と登り王頭を守る意味(成)三三桂(成)(成)同銀で(成)五五歩と戦端は開始されました(成)棄て置けば模様が悪くなるから(成)同歩(成)ここで(成)六七桂と打て置きます(成)上手も(成)五四桂(打)で金を見切りまして(成)五五桂と強く飛ぶ(成)六六桂で(成)狼狽して四三桂など行きましては末の味が残りませんから(成)同角(成)五四銀で(成)六三桂(成)(成)同銀引かせて(成)五五桂(打)(成)五四銀で四三桂成る手も有りますが(成)四五歩が含有りて好手です(成)即同歩なれば四三桂(成)同銀三一(成)金(打)で勝でありますから(成)四二金(打)と固く守る(成)四三桂(成)(成)同銀(引)で(成)四四歩と取り込む(成)同銀(成)四五歩(成)五三に引けば五四歩と打たれる故(成)同銀(成)四四歩と歩を残されました(成)三一桂(打)(成)五五金(打)で五三桂なれば五四歩(打)あれば(成)四六歩

(打)四五金(成)四七歩(成)四三銀(打)と激しく追ります(成)同桂(成)同歩(成)(成)同金(成)五桂(打)で下手完全の勝であります。

第二章 角落

(成)六二銀(成)七六歩(成)五四歩(成)五六歩(成)六四歩(成)六六歩(成)八四歩(成)七八銀(成)七二金(成)六七銀(成)八五歩(成)七七角(成)四二銀(成)七八飛(成)五三銀(成)四八五(成)五二玉(成)三八玉(成)七四歩(成)五八金(成)左(成)九四歩(成)九六歩(成)四二金(成)一六歩(成)一四歩(成)二八玉(成)四四歩(成)四六歩(成)三四歩(成)三六歩(成)七三金(成)三八銀(成)六三玉(成)四七金(成)八四金(成)五九角(成)七三桂(成)二六歩(成)八一飛(成)盤面(成)同銀(成)六二銀は守勢に出でて敵陣の模様を窺がふたのであります(成)七六歩は前に(成)屢々(成)説いた通り(成)五四歩は敵が何時早仕(成)薙げに攻勢に出づとも先ず地利を占めて攻守に便であります(成)五六歩は同意味(成)六四歩は順序の手(成)六六歩は前章に説いた通り(成)八四歩は飛先より破らんと歩を援護して進撃するので有ります(成)七八銀は七七に上つて(成)櫓の意味も有り又六七に上つて飛を五八又は七八に振る意味も有りて上手の駒組を窺います(成)七二金は駒組み(成)六七銀と戦機も熱し

たから本性を表して飛車を七筋にふる準備を致します。八五歩で歩を取り換ると不利故。七七角と上ります。四二銀は次に五三に上つて王の護衛となり又自ら戦陣に立つ意。七八飛は含み通り位置を變じました。五三銀(左)と上る。四八玉は戦機熟して何時血戦が始まるか分らんから先ず大將を圍ふて置きます。五二王は只圍るる許りてなく諸將と共に防備の任に當るもの。三八玉。七四歩は桂を捌く意。五八金(左)は茲で二八玉と行きたい所ですが敵より早指せられた時に手が遅れて不利益となります。順序の手です。九四歩。九六歩は端の位取り。四二金は王の守りともなり後に二筋三筋の歩を援護して前進する意。一六歩王を廣く致しました。一四歩は玉の城壁を縮め時機を見て奇襲を企てる意味も有ります。二八玉。四四歩は位取りここで四五歩と突かれて位負け。四六歩と突きます。三四歩も同意。三六歩此の時四五歩突けば同歩。六五歩。三三桂で下手が悪くなり。七三金は八筋に金を上る準備。三八銀と締める。六三王は諸將と共に戦いて時機を得ば入王の意も有ります。四七金は玉の守り。八四金で五九角は一は飛道を開き二には角の動を付けたので有ります。此八四金の時五九角繰りは

手筋で有ります。七三桂は攻撃の準備。二六歩は高美濃に組まん準備。八一飛は飛の横を通して二一に振る意味も有ります。盤面の圖と爲しました。

盤面以下之指方第二節
 二七銀。八六歩。夏同角。九五歩。
 同歩。同香。同香。同金。同角。八七。
 飛(成)。七七角。八九飛(成)。三八銀(引)。
 八六歩(打)。八八飛。同龍。同角。八。
 七歩(成)。七九角。六九飛。
 春八八飛の所。
 七九金(打)。八七龍。八八金。九六龍。
 八九香。九五桂(打)。九七歩(打)。八五。

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	飛	銀	金	歩	歩	歩	歩
龍	香	桂	飛	銀	金	歩	歩	歩
香	桂	飛	銀	金	歩	歩	歩	歩
香	桂	飛	銀	金	歩	歩	歩	歩
香	桂	飛	銀	金	歩	歩	歩	歩

一 皇 二 将 三 王 四 飛 五 歩 六 歩 七 歩 八 玉 九 香

【講義】今度は下手方の手番で有りますが定跡通りに行けば二七銀で高美濃に組む

ので有ますが夫は面白くありません其理は直に上手方より早指しに○八六歩と急指しに來られる先づ▲同角から説きませふ○九五歩は棄て置けませんから▲同歩と應じると○同香▲同香○同金と手強く指される▲同角より致方はないそこで○八七飛(成)で銀が浮いて居りますから▲七七角(引)○八九飛(成)で▲三八銀(引)で金を繋いで置きます○八六歩(打)で金を作られて上手の力を以て徐に捌かれては大變だから八八歩(打)では八一香と打たれて防ぎがなく仕方なく▲八八飛と受ける○同龍▲同角○八七歩(成)▲七九角○六九飛(打)で此後は徐々と寄せられる形で有ます又▲八八飛の所▲七九金なれば○八七龍▲八八金と撃退する○九六龍と逃げる▲八九香(打)で凌ぐと○八六歩と打たれ▲九七歩(打)でも○九四龍と引かれて後に上手より種々指込の手段ありて下手の破となります。

盤面以下の指方 第三節

▲二七銀○八六歩(秋)▲同歩○九五歩▲同歩○同香▲八五歩○同金▲九五香○同金▲同角○八九飛(成)▲四八飛。

【講義】夏同角の所▲同歩でも○九五歩と指されます▲一歩○同香で角道を開く

▲八五歩○同金▲九五香○同金▲同角で○八九飛(成)と指され▲四八飛にても何分大駒一枚の力の差が有るのでから上手方宜し。

盤面下の指方 第四節

▲八八飛○四三金▲二七銀○九五歩▲同歩○八六歩▲同角○八五金▲五九角○九五香▲同香○九六金▲九二香(成)○八七飛(成)▲同飛○同金▲五八銀(引)○九九飛(打)▲八二成香○八九飛(成)▲四一飛(打)○四二金(引)▲六一飛(成)。

【講義】右の結果の如く下手方の指方はあまり好結果でありませんから二七銀(上)の手は時期を失したと曰はねば成りませんそれでは如何指すかと云ふに先ず▲八八飛と守る○四三金と立ちます此時に▲二七銀と上る茲で○九五歩と衝蒐て参りまして▲同歩○八六歩で同歩なれば角道を留める故▲同角○八五金と角にあてます▲五九角(引)○九五香▲同香と取らせて○九六金と出ます棄て置けませんから▲九二香(成)之は末に王の逃路を遮断する事も出来て面白く有ます○八七飛(成)▲同飛○同金で銀の離れ駒がある故▲五八銀引いて金も繋いで置ます○九九飛(打)で成香は與れませんかから▲八二成香○八九飛(成)▲四一飛(打)で五二王

なれば二一飛(成)でよろし又○四二金(引)なれば二一飛(成)手もありませんが桂は何時でも取れる故(成)六一飛(成)と指して七二成香又は九五角出の味が残りて下手大に宜し。

盤面以下之指方 第五節

○四三金(成)二七銀(成)○二四歩(成)三八金(成)○三一飛(成)四八角(成)○三五歩(成)同歩(成)同飛(成)六五歩(成)○七五歩(成)同歩(成)○六五歩(成)七六銀(成)○六四銀(成)○二五歩(成)○三四飛(成)三五歩(成)打(成)同飛(成)三六金(成)○三四飛(成)三五歩(成)○三二飛(成)二四歩(成)○三三金(成)二六銀(成)○二四金(成)二五銀(成)○三五金(成)同金(成)同飛(成)二六歩(成)○三一飛(成)七四金(成)打(成)同金(成)同歩(成)〔講義〕○四三金は飛車を三一に振りまして其援護に依り進撃の意味も有ます(成)二七銀(成)○二四歩(成)三八金(成)と締めまして高美濃(成)と爲りましたが此組方は玉頭は金銀桂の將卒(成)が守備して居ますから容易に破れません飛車廻りに備へた手で角落には最も適切なる組方で有ます○三一飛(成)と廻りました(成)四八角(成)は遙に金を狙ふた手(成)○三五歩(成)と突(成)蒐(成)る(成)同歩(成)同飛(成)で透(成)かさ(成)す(成)六五歩(成)と衝(成)く(成)飛車(成)で取れば六八飛(成)で飛車が捕虜(成)になるから(成)○七五歩(成)同歩(成)で(成)○六五歩(成)と出(成)ます(成)七六銀(成)で(成)

六四銀(成)と守(成)る(成)そこで方面を變(成)まして(成)二五歩(成)と突(成)く(成)同歩(成)なれば(成)二二歩(成)打(成)で(成)金を作(成)られますから(成)○三四飛(成)で(成)三五歩(成)打(成)同飛(成)より致(成)方は(成)有り(成)ませ(成)ん(成)三六金(成)と手(成)強(成)く(成)肉(成)薄(成)する(成)○三四飛(成)と引(成)ます(成)故(成)三五歩(成)打(成)で(成)○三二飛(成)二四歩(成)で(成)○三三金(成)と守(成)備(成)する(成)と(成)二六銀(成)と追(成)々と(成)盛(成)り(成)上(成)つて(成)参(成)ります(成)○二四金(成)二五銀(成)と強(成)く(成)交(成)換(成)を(成)迫(成)る(成)○三五金(成)同金(成)同飛(成)二六歩(成)打(成)は(成)次(成)に(成)三四金(成)打(成)で(成)飛車(成)を取(成)る(成)ふと(成)する(成)ので(成)有(成)ます(成)故(成)○三一飛(成)七四金(成)打(成)同金(成)同歩(成)で(成)七筋(成)に(成)喰(成)い(成)こ(成)む(成)隙(成)が(成)出(成)來(成)て(成)下(成)手(成)の(成)勝(成)で(成)有(成)り(成)ます(成)。

第八編 左香車落

左香車落は駒落の將基中最も困難なる將基でありまして段格に於ても單に二段の相違で且つ痛みと申しましても香一枚と言ふ極く僅かな所で其代り上手の力を以て先手を指されまますから少しでも遅い鈍な指方を致しましては直ぐに指込まれます實に油断の出来ぬ六ヶ敷將基であります香車を勝ち越せば平手の格と云はれる程ですから以下講じまする所に就て良く之を玩味せられん事を願います。

第一章 左香落上手早圍い六四銀上り指方

○三四歩▲七六歩○四四歩▲二六歩○三五歩▲二五歩○三三角▲四八銀○三二
 飛▲一六歩○四二銀▲一五歩○六二玉▲六八王○七二王▲七八王○五二金(左)▲
 五八金(右)○九四歩▲九六歩○五四歩▲一八飛○一二飛▲一六飛○四三銀▲三六
 歩○同歩▲同飛○六二銀▲(香)四六歩○三二飛▲三五歩(打)○五三銀▲四七銀○七
 四歩▲五六歩○六四銀▲三七桂○四二角▲六八銀(盤面圖)

【講義】最初○三四歩は前述の如く角の自由を計つた最も廣い手であり、七
 六歩は角を換ふとするのであります。○四四歩は此際是非とも突かなければな
 らぬ歩で斯く角換りを留めさせぬと上手に左香が有りませぬから始終角の打込
 の隙がありまして誠に指し難い結果と爲ります。▲二六歩は飛先の活動を計る意
 味であります。茲で七五歩と突き飛車を七筋に振り替へて指す手も有りますが香落
 では居飛車を普通と致しますから先づ本筋を説きます。○三五歩は飛車を三筋に廻
 る合▲二五歩は益々敵陣に肉薄するので若し茲で外の手を指しますと三二飛二
 五歩三四飛と飛を中段に浮ばれて飛車の活動を廣くして策戦上拙なる者であり

ます。○三三角は飛車先の防ぎ▲四八銀は慣の手で我三筋の守りともなり且つ上
 手から猛烈に攻勢を取られたる時に居玉の援護ともなる温和なる好手でありま
 す。○三二飛と含み通りに廻ります。▲一六歩は端の痛みを狙います。○四二銀は四
 筋の急指しの攻備ともなり四三に立ちて攻むる含みもあり、▲一五歩は端の
 痛みの何時でも指せる様にして置きます。○六二王は正に開かれんとする戦場を
 避けまして安全なる地に一步を踏み入れて充分なる駒捌きをせん爲であります。
 ▲六八玉も同意味。○七二王▲七八王○五二金(左)は王の守兵で普通の手▲五八金
 (右)と早く締めます。○九四歩は王の圍いを廣く安全ならしむるもの▲九六歩は敵
 の玉を幾分か狭くする意味であります。○五四歩は五筋の位取りで五六歩と應ず
 るが普通なれど五五歩突く手順はありませぬ何時でも突けますから▲一八飛は
 端歩を換る目的でありまして若し交換せぬ時は一二飛と誘引する意味上手方歩
 を換へられては面白くありませんから○一二飛と受ける▲一六飛は一見無意味
 の様であります。が之は三六歩と突き歩を換る意味でありまして始めから二四飛
 と浮きましては敵の飛車は其儘で一二飛廻る一手を他の手に利用されるから一

六飛と上りて一手の徳をしたのであります。□四三銀は四筋の守り又三四銀立の意味も有ります。▲三六歩は歩を換る爲め□同歩若し此所三四銀なれば三五歩二五銀五六飛で下手方には二六歩(打)及び三七桂飛びの意味が残りて指良し故に上手方も□同歩と取る▲同飛で飛車の位置を變へました。□六二銀は攻守兩様の手で次に下手方二四歩と突く手があります之は天野宗歩の精選にも出て居つて下手良しとありますが結果は下手の不利となります。上手二四歩と取る三三飛(成)同桂二三角(打)二二飛五六角(成)で二五桂と飛ばれて下手方悪いのであります。次に三四歩(打)三二飛四六歩五三銀四五歩二七飛(打)四四歩同銀(成)四五歩五五銀三八龍馬二六飛(成)五六歩三四飛にて下手よろし故に下手方は穩やかに▲四六歩と指す上手も飛車が一二に居ては役に立たぬから□三二飛と元の位置に歸ります。茲で下手方▲三五歩(打)が本筋の指方であります。此手はおとなしく駒の運びを付けて指す含みですから是非とも打たずには居られぬ大切なる歩であります。其理由は若し三五歩打たぬ時は上手より四五歩と突いて反對に角の交換を迫られます。交換を拒む時は駒の利道を止めて悪くなります。又角を交換致しまして上手の地詰へ

打ちましても上手方には香がなく下手方は桂香が捌けて居らぬ故結局下手は香損と爲ります。力に於て已に二段の相違のある上手方に香一枚持たれましては終に下手方の不利に終るだろふと思ひます。上手方次に□五三銀は五筋の守り▲四七銀と下手も負けず劣らず進撃する。□七四歩は末に六四銀と繰り上り場合に依りては桂刎ねの意味も有ります。▲五六歩は位取り□六四銀は七筋の歩を換りて指す意味も有ります。▲三七桂と敵情を窺ふ□四二角と引いて七筋を狙います。又五三角と繰り代へる意味も有ります。▲六八銀は守り手であります。盤面の圖となりました。

盤面以下の指方 第二節

- 七五歩▲同歩□同銀▲四五歩□五三角▲二四歩□同歩▲二二歩□(春)同飛▲四四歩□同角▲同角□同銀▲三一角(打)□四二飛▲同角(成)□同金▲七四飛(打)
- (春)同飛の所□四五歩▲二一歩(成)□三五飛▲同飛□同角▲七四飛(打)□七三飛(打)▲同飛(成)□同桂▲四五桂□(夏)七七歩(打)▲同角□六五桂▲七四飛(打)□七三歩▲七五飛□七七桂(成)▲同桂□三九飛(打)▲六五桂▲六四角(打)▲八五桂(打)□六二金(直)

▲七三桂(左成) □同金 ▲同桂 □同角 ▲七四歩(打) □六四角 ▲七三銀(打) □六一王 ▲六四銀 □同歩 ▲七三歩(成) 第三節
盤面以下の指方第二節

○七五歩は同歩と取らせて角の被護に依りて銀を進み王頭に近寄るのであります ▲同歩 □同銀で下手法も最早や猶豫すべき場合ではありませんから ▲四五歩と衝蒐けます 此時五五歩と角道を留めれば同角で差支へありません 扱て四五歩同歩を取りましては四四歩(打)で銀を取られますから □五三角と防いで置きます 此時四四歩では同銀で反つて悪るく爲りますから ▲二四歩 □同歩と應せぬ分には参りませんそこで ▲二二歩(打)で上手方同飛と出る手と四五歩と

左香落 ▲六八銀マデの局面

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	将		専				将	
		王		専	将	進		
	兵		兵		將		兵	兵
兵		兵	將	兵	兵			
						歩	歩	歩
歩		歩		歩	歩	飛		
	歩		歩		銀	桂		
	角	玉	銀	金				
香	桂		金					香

▲下手方

出る別れがあります 先ず □(香)同飛から述べませぬ ▲四四歩と行く若し同銀なれば四五歩三三銀三四歩でよろしく又四五歩の時三五銀なら同飛同角(二二角(成))で上手の破れと爲りますから四四歩を □同角と取るより仕方ありません ▲同角 □同銀で ▲三一角と致命傷を與へます 上手方は仕方なく □四二飛と寄るそこで ▲同角(成) □同金と飛角を交換致しまして ▲七四飛(打)で銀取の王手となりまして 下手方の勝であります。

變化 春上手方二二歩(打)の時同飛と取りまして破れとなりましてたから今度は四五歩と取つて指して見ませぬ之は桂を見切りまして飛車を交換する手でありませぬ 下手方は強く ▲二一歩(成)と指します 上手方は含み通り □三五飛と出る ▲同飛 □同角で下手は透かさず ▲七四飛(打)の王手を掛けて激しく迫ります 之は王を釣ります 面白い手でありまして 此時四五桂など出ましては三二歩(打)で末に三一飛(打)の手が消ねますから此の際に於ける要點は七四飛(打)で有ます 上手方 □七三飛(打)と守る ▲同飛(成) 上手方同王なれば三一飛(打)が有から □同桂と出る ▲四五桂は歩を一つ得て七四歩(打)の含みもありません □(夏)七七歩(打)と上手も攻めて参ります

同角○六五桂と削て直接王頭にかゝりす此時角を逃げなどと後手になりすから七四飛(打)○七三歩と間をする七五飛と銀を取りて一先ず引ます
 ○七七桂(成)同桂で上手方は○三九飛と打つて時機を覗いすが斯んな飛車にはかまはず六五桂と飛んで攻勢に出ます○六四角(打)と守る八五桂(打)と愈々肉薄致しました○六二金(直)と守れる限り防備致します七三桂(左成)同金同桂(成)同角ですつぱり駒が捌けて仕舞いまして上手方は守勢一方で致方ありません七四歩(打)○六四角と逃げる七三銀(打)で○六一王と宵逃げする六四銀○同歩七三歩(成)と指されては上手方に手が着いて居らずして下手の王には一寸とかゝれませんが此末と金を徐々に捌られて下手方自然の勝であります。
 變化夏

○七七歩(打)の所○三二歩(打)七四歩(打)○六五桂九七角○七七歩(打)七九王○八四銀(引)七六桂(打)○九三銀七五飛○六二金(直)六五飛○三九飛(打)七五角○一九飛(成)七七桂○六一王三三桂(成)六八角(成)同金(寄)○三三歩四六角(打)○四九龍七三歩(成)○四七龍六二と○同金七四桂(打)○四六龍六二桂(成)

○同玉五三金(打)○七一王九三角(成)同香七五飛○八一王九二金同王

左香落下手四五桂マデノ局面

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	角	王	銀	金	歩	歩	香
香	桂	角	王	銀	金	歩	歩	香
香	桂	角	王	銀	金	歩	歩	香
香	桂	角	王	銀	金	歩	歩	香
香	桂	角	王	銀	金	歩	歩	香
香	桂	角	王	銀	金	歩	歩	香
香	桂	角	王	銀	金	歩	歩	香

八四桂○同歩七二飛(成)第三節
 上手方七七歩と打つて面白からぬ結果と爲りましたから今度は○三二歩(打)で三一飛(打)の傷を消して指して見ませふ
 七四歩(打)は王頭に攻めかゝる○六五桂と逃げる九七角で銀取れと成りますそこで○七七歩(打)の王手をする同桂と行く手もあります夫では上手に桂を一枚持たれつ却て面白くありませんから持重して七九王と引く上手次に七六銀なれば七五飛(打)がありますから
 ○八四銀七六桂(打)で八五銀なれば矢張り七五飛(打)があるから○九三銀(引)そこで七五飛と打ちます歩に化られては

大變故□六二金(直)と守る(まも)るここで一應(いっおう)六五飛と桂を取ります上手も三三桂(成)で角を飛車に取られますから□三九飛(打)で撃(う)いで置(お)きます七五角と出る飛車にあたるから□一九飛(成)下手は王の頭に歩があるので模様(ようばう)が悪いから七七桂と捌(わ)く上手八五桂と勿(な)ねられては破(やぶ)れです故(ゆゑ)□六一王と宵逃(よせにげ)をする三三桂(成)□六八角(成)同金(寄)□三三歩次に四六角(打)は致命傷(めいじやう)であります龍を抜(ぬ)かれては堪(た)まらぬから□四九龍で銀などは見(み)切りまして七三歩(成)と猛烈(めいれつ)に攻(う)めかゝります上手も同金では同角(成)で反(かへ)て御手傳(ごてでん)となりまますから□四七龍六二と□同金七四桂(打)で金を逃(に)げて見(み)ましても下手必勝(ひっせつ)の勢(いきほ)ですから□四六龍と行きま(す)六二桂(成)□同王五三金(打)□七一王と寄(よ)る九三角(成)は同香(どうかう)より致(いた)し方もありません即(すなは)ち□同香七五飛で合間(あひま)は出来(こ)ませぬから□八一王九二金(打)で□同王八四桂□同歩と取(と)らせて七二飛(成)で一(い)つも隙(す)きなしに詰(つ)んでしま(ま)す。

第二章 左香車落鳥指し

□三四歩七五六歩□五四歩七四八銀□五二飛七六八銀□五五歩七同歩□同飛七

欠

欠

突きます▲三三角は後手方先手に飛先の歩を切られると飛車の活動を良くし且つ手駒を一つ持たれて悪いのでありま
 すから三三角で飛先を留める□四八銀は敵が早仕掛けに来るとも五七四七三七に上りて防ぎ且つ居玉の守りともなり
 ります▲四二銀は四筋の守りともなり四三に上りて飛を二二に振り又角道を吾より開く意味もあります□五六歩は五筋は戦鬪の要路で先づ形勝の地に一步を進めたのであります後手も負けずに▲五四歩と應じます□三六歩は桂の捌き▲四三銀と立ちます□五八金は王の守り▲六二銀と出る□六八王は互に録を交へるに先だち安きに付かんとするのであります▲七四歩は銀桂の捌きと

平手先手▲六六銀の局面

一	香	桂	金	王	金	桂	香
二	歩	歩	角	銀	歩	歩	歩
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
四	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
五	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
六	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
七	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
八	飛	桂	王	金	角	桂	香
九	香	桂	金	王	金	桂	香

▲先手方 □後手方

もなり且つ七二に飛を振てり王頭を攻める含みもあります□七八銀は七七銀と上りて王頭の守護に任するのであります▲七二飛は王頭を狙ふたのです□七七銀と上る▲五三銀は飛車に應援するのです□五七銀は矢張り王先の守り▲六四銀□六六銀と守る之で盤面の圖と爲りました。

盤面以下の指方。

▲五二飛□七八王▲四五歩□七九角▲五五歩□二四歩▲同歩□同角▲同角□同飛▲二二歩(打)□三七桂▲一五角(打)□二七飛▲五六歩□五三歩▲七二飛□一六歩▲三三角▲四五桂▲四四角□六八金(直)▲七五歩□同歩▲同銀□同銀▲同飛□五二銀(打)▲同金(右)□同歩(成)▲同金□五三歩(打)▲四二金(寄)□六六角(打)▲同角□同歩▲四四角(打)□四六歩▲七二飛□六五角(打) 第二節

〔講義〕こんどは後手の手番ですが茲で幾通りも指方がありますが先づ▲五二飛と中飛車の趣向を立てて見ませふ□七八王と寄ります茲で後手方五五歩と突きますと同歩同銀同飛六六銀(上)五二飛五五歩(打)で面白くありませんから▲四五歩と角路を開きます□七九角と引いて角換ろふと指します先手方此時二二飛

と向い飛車に振る手もありますが趣向通りに▲五五歩と衝蒐けます此時同歩と食ふてはいけません同銀同銀同角で悪くなりますから□二四歩と突く▲同歩□同角▲同角□同飛で飛車に成られては大變ですから▲二二歩(打)と防ぐ□三七桂は四五に飛んで王先を狙ふたのです▲一五角(打)で飛車が桂を取ろふと致します□二七飛と引きます▲五六歩と五筋に肉薄する□五三歩(打)は面白い手であります飛で取れば一六歩で角を三三に下らせ四五桂と出ます銀で取り拂ふても同じ手順となりますから已むを得ず▲七二飛と寄ります▲一六歩と突く▲三三歩より致し方ありません□四五桂と飛ぶ四二角と引きましては二二へ飛を成られますから▲四四角と登る此際先手方も別に良手もありませんから穩かに□六八金(直)と王側の締りを致します敵の王は居王で危険でありますが味方の王は二枚の銀二枚の金で護衛がしてあります金城鐵壁であります云ふて敵の王は今更何れの方面に圍ふても面白くありませんから▲七五歩と奇襲を企てます□同歩▲同銀□同銀▲同飛此時透かさず□五二銀(打)同銀では王頭が寂しく爲りますから▲同金(右)□同歩(成)▲同金□五三歩(打)▲四二金と開きます□六六角(打)▲銀所な

く同角□同歩▲四四角(打)は棄て置けば飛車に成られて仕舞います□四六歩は桂を繋ぎ且つ飛車の横を通したのです▲七二飛と引き王頭を守り且つ歩を銀の頭に打つて仕舞る意味□六五角(打)で捨て置けば四七に角を切られ二二に飛成る手も出来て結局は勝であります。

(春)七五歩之所 第三節

▲三二金□四六歩▲七三桂□四七金▲六五桂□五六金▲七七桂(成)□同桂▲七五歩□六五桂▲七六歩□七三歩▲七七銀(打)□六九五▲四二飛□七四角(打)▲六六銀□同歩▲五五歩□五七金▲五四銀□八三角(成)▲八二歩(打)□八四龍馬▲四一王□五二銀(打)▲同金□同歩(成)▲同飛□五三歩(打)▲四二飛□二四桂(打)▲三一金□七二歩(成)▲同飛□七三桂(成)

【講義】後手方七五歩突かすに▲三二金と飛先の痛みを消して指します□四六歩▲七三桂は六五桂と飛んで五筋七筋より攻勢を取るのではありません□四七金は五六歩が邪魔になるから末の痛みの根を絶やさんと登りました▲六五桂□五六金と歩を取る銀が惜しさに八八銀など引いてはいけません▲七七桂(成)□同桂▲七

五歩は桂先を攻めんとするもの□六五桂と行く▲七六歩□七三歩と打つ▲七七

銀と王手を致します□六九王こんな時

平手▲六六銀マデの局面(第二圖)

に同銀など取ると同歩(成)同金で面倒になりますから軽く逃げて置きます▲四二飛と逃げる□七四角は好い手であります▲六六銀(成)□同歩▲五五歩(打)で五七金と引かせて角が六三に成られてはたまりませんから▲五四銀と越す□八三角(成)▲八二歩(打)□八四龍馬で七二歩(成)で開き王手で堪まりませんから▲四一王と宵逃する□五二銀(打)▲同金□同歩(成)▲同飛□五三歩(打)▲四二飛で追々と詰が近寄りました□二四桂(打)と王の繋ぎ金を取らしては尚悪くなるから▲三一金(引)□七二歩(成)▲同飛□七三桂(成)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
▲								▲
				▲	▲	▲	▲	▲
						▲	▲	▲
								▲
								▲
								▲
								▲
								▲
								▲

の繋ぎ金を取らしては尚悪くなるから▲三一金(引)□七二歩(成)▲同飛□七三桂(成)

同銀なれば同角で寂滅又同飛でも五二金で詰ですから詮方なく元の四二に戻る
○六三成桂でもふ到底凌ぎはなく即詰みであります。

第一節の變化、第四節(第二圖)

九四歩○九六歩△一四歩○七八王△三二金○一六歩△四一王○七九角△三一
王○三五歩△同歩○同角△五二金○二四歩△同歩○同角△同歩○同角△二三歩
(打)○二六飛△二二王○六八金(直)△五三角(打)○三六飛△三四歩(打)○四六歩△四二
金(寄)○二六飛△七五歩○同歩△同銀○にて盤面の圖と爲る。

【講義】後手方は先手方六六銀と上つた時に五二飛と廻りまして負と成つて仕舞
いしましたから今度は穩やかに九四歩と端の位を取つて指して見ませふ○九六
歩と同じく位を取る△一四歩○七八王と先づ王を圍います△三二金は左端の守
りとなり又玉を左に圍ふ意味もありますそこで○一六歩と衝いて置きます△四
一王○七九角は二四歩と突いて角を換る含みであります△三一王で二二王と繰
る考へ△三五歩は此時二四歩でも宜しいが手に歩を一つ多く持つ趣向です△同
歩より仕方ありません○同角○五二金は此時三四歩(打)手もありますが矢張二四

歩と衝蒐けられますから五二金で王を守護に参ります○二四歩△同歩○同角△

同角○同飛と變ります△二三歩(打)で○
二六飛と引いて居ります二八飛引手も
ありますが二六飛の方が横筋にも睨が
利き紛れが少くて宜しい△二二王と城
に籠りました○六八金(直)と締めて槽に
組みます△五三角(打)で飛車と七筋八筋
を狙いますそこで○三六飛と寄る敵も
五二金が離れて居りますから△四二金
と繋いで紐付と致します○四六歩△三
四歩は王の頭が何となく模様が悪いか
ら三四歩で飛道を切る○二六飛と寄る
敵も恸ふなつては一舉に勝敗を決せん
と△七五歩と衝いて参りました○同歩△同銀で盤面圖となりました。

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	王	金	銀	飛	桂	香	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	

盤面以下の指方第五節

○七六歩(打)同銀○七三歩(打)同銀七七銀(成)○同銀八二飛○七四銀五二金(寄)○五五歩同銀四五歩○三六飛同銀三五銀(打)○三八飛同銀四六歩○五七金五五歩○三六歩同銀四四銀(引)○四八飛同銀三三桂○四六金同銀四五歩○四七金三五歩○六六銀同銀三六歩○同銀三五歩○三七金同銀八四歩○三八角。

〔講義〕圖は同銀七五歩○同歩同銀と取つた所でありすが此々先手方は○七六歩(打)と指します若し同銀と取る同角六六銀(打)六四角七六歩(打)三五銀で先手方面白くありません同銀○七三歩(打)で飛先を切斷致します同銀七七銀なるは先手です○同銀で同銀八二飛と退きます七三歩は若し桂で取ると七四銀と打たれる歩を打つと桂をはねられますから銀打に限りまず飛車で除くと八二角と打たれますから據所なく八二へ寄つたのであります○七四銀で同銀五二金と寄らねばならぬ銀は矢鱈に打てません○五五歩と突く茲で同歩と應ずると透かさず三八角九二銀(打)七二歩(成)同飛八三銀同銀同角(成)七一飛七二歩四一飛八二龍馬九三香七一歩なるで敗北となる勿論此將棋は已に後手に敗勢が表はれて居ますが此將棋に

限らず今まで優勢なりし局面が只一手の指違ひより勝敗地を變へる悲運に陥いる者ですからよく注意せねばなりません後手も同銀四五歩と指す飛車を取られますから○三六飛と寄る同銀三五銀(打)○三八飛と引きます同銀四六歩敵地に進入する○五七金は力指しの意味で強い手筋で有ます同銀五五歩○三六歩(打)ます此時二六銀なれば四六金と上り後に五八飛と振りて先手方指良いので有ます故に同銀四四銀と引き己が陣地の守に任ずる○四八飛同銀三三桂と極力防戦する○四六金と強く登ります四六金上らず三八角と行くと五六歩同角五五銀三八角五六歩同銀同角五五金三八角五六歩で先手面白く有ません同銀四五歩(打)で○四七金と引かせます次に六四角なれば七一角と打て先手指良し故に同銀三五歩と衝きます○六六銀は四四にある銀が三五銀とでも行きましたら直に五五へ食い込む含であります同銀三六歩と進む温和に○同金と取る又同銀三五歩で金を○三七金と下げる斯ふなりますと後手は愈々何所にて手を落ろす所はありませぬ全くの手詰りですから同銀八四歩とでも突いて見ます先手は透かさず勿怪の僥倖と○三八に角を降ろして勝てあります。

欠

▲四五歩と突く取られませんかから○六六歩で角道を閉塞する▲同歩○五六歩▲同銀○五五歩▲六七銀(引)そこで○四五桂とはねる▲同桂○同歩で指す手もありませんかから先ず▲六八金(寄)で王を堅固にして置ます○五四桂(打)▲五八桂(打)で最早や防備を嚴にするより致方ありません愈々鋭く○四六歩▲同桂○同桂▲同銀そこで又○五四桂で防ぎもないから▲五七銀(引)○四六歩でと金を拵らへ徐に捌かれては大變だから▲四八歩○六五歩(打)▲同歩○同桂で銀を取られて同等の力では結局指しこまれて先手方の勝であります。

第三章 平手中飛車

○三四歩▲七六歩○五四歩▲五六歩○五二飛▲五八金○三二金▲四八銀○三三角▲六八王○四二銀▲七八王○六二王▲二六歩○七二王▲五七銀○九四歩▲九六歩○六二銀▲二五歩○五三銀▲六六銀○六四銀▲六八銀○(寄)五三銀▲五七銀○四四銀▲四六銀○五一飛▲六八金(寄)○六二金▲三六歩○一四歩▲一六歩○七四歩▲三七桂○七三桂▲四五桂○四二角▲三八飛○六五桂▲三五歩○同歩▲同銀(盤面圖)第一節

【講義】本章に於て中飛車の講義を致します元來中飛車は平手の將基に於て高段の者は余り指しませんと云ふのは已に飛車を振るのが一手の損許りでなく最も主力を注集して居る中央から破ると云ふのは同等の力のある者同志では困難では有ますまいが然し一旦壊滅と來ましては王に近いだけ負も早い分ですから皆様も一度は講究の必用があると思ふて茲に詳説致します。

○三四歩▲七六歩は普通の手茲で一般は八四歩と先手居飛車を指すが定則ですが中飛の趣向で○五四歩と指す▲五六歩は敵の中飛に對する受で他の手を指すと五五歩と位負に爲ります且つ意味に於て敵の術中に滔いつた事に爲ります○五二飛と中飛が明に爲りました故▲五八金と備へる此所四八銀なれば五五歩同歩同角で捨置と王手が掛りて模様が悪から五八金を先にせねば爲りませぬ○三二金は三筋の防禦▲四八銀と繰ります○三三角は角の活動を良くしたので二四角の覗き又は四二に引落す意味も有ます▲六八王○六二王▲二六歩は飛先より攻撃の準備○四二銀は繰り上つて飛車の援護に依り攻撃に移るので有ます▲七八玉と安全なる地位に移す中飛受には特に玉を早く形附ねばなりません○七

二王五七銀は敵の模様依り六筋に上りて五筋を防ぐ意。九四歩は端の位取りと共に幾分王を廣くした形。有ます九六歩も同意味。六二銀は五筋より敵の陣地に攻め入る意。二五歩は吾は居飛車ですから何時にても敵に迫り得る様機会を待つ。五三銀(右)と上つて参ります。六六銀は中飛の受。六四銀で六八銀と對等の勢力を持して左銀を繰る。五三銀。五七銀。四四銀で四六銀と受けて置く。斯く受けて置きますれば五五歩と來ても少しも差し支へは有ません。五一飛。六八金(寄)で王を締め置いて置く。共飛車を五八に振る意味も有ます。六二金と敵も王を堅固に致します。三六歩は桂を登つて攻勢を取る含み。一四歩。一六歩は端の位取り。七四歩は七三桂と立つて五筋七筋を攻める含み。通り。三七桂敵方も。七三桂と立つ。茲で手強く。四五桂と飛びます。銀桂交換の手順も有ませんから。四二角(引)二二角(引)けば直ぐ二四歩で不利で有ます。三八飛。六五桂と飛んで後手方の中飛の趣向を消します。三五歩と突く。同歩強く。同銀と取る之で盤面圖と爲りました之より如何なる手段を以て中飛の備へを紛碎致しませふか。次節に詳説致します。

盤面以下之指方第二節

○同銀。同飛。三三歩(打)。六五銀。同銀。三三桂(成)。同桂。六五飛。四四銀。三四歩。六四歩。四四角。六五歩。三三歩(成)。同金。六四桂。同角。三三角(成)。四二銀。三二龍馬。三八飛。三三歩。八四桂。八五銀。

【講義】後手方三五銀の局面で有ますが先手方四五銀と桂を取りますれば四六銀(引)で先手歩一つです。故飛車の頭に打つても飛先は留まらず金が浮きまして結局銀桂替りて先手の損です。故。三五銀と行きます。同飛で。三三歩(打)。六五銀で。同銀より致方有ません。三三桂(成)。同桂で。六五飛次に飛車が三五に還

後手三五銀までの局面

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	玉	金	銀	桂	馬	馬	香
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
角	角	角	角	角	角	角	角	角
飛	飛	飛	飛	飛	飛	飛	飛	飛
金	金	金	金	金	金	金	金	金
銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀
王	王	王	王	王	王	王	王	王
後手	後手	後手	後手	後手	後手	後手	後手	後手
先手	先手	先手	先手	先手	先手	先手	先手	先手

られては堪まらぬ故○四四銀と堅める▲三四歩(打)○六四歩で此の時飛車を逃げたりすると反つて手順が遅れますから見きりまして▲四四角と切る同歩では三五飛で悪い故○六五歩▲三三歩(成)次に四四歩なれば四二と同金八六角五三銀六四桂八二王七二銀同金同桂同王六四桂で後手宜し故に○同金▲六四桂(打)六三王と越せば六二角(成)同王五二銀にてよろし故に○同角▲三三角(成)○四二銀▲三二龍馬○三八飛なれば▲三三歩(打)○八四桂▲八五銀と受けて後手方の王は大盤石で有ります。

變化春第三節(二十五手目)

(春)五三銀の所。

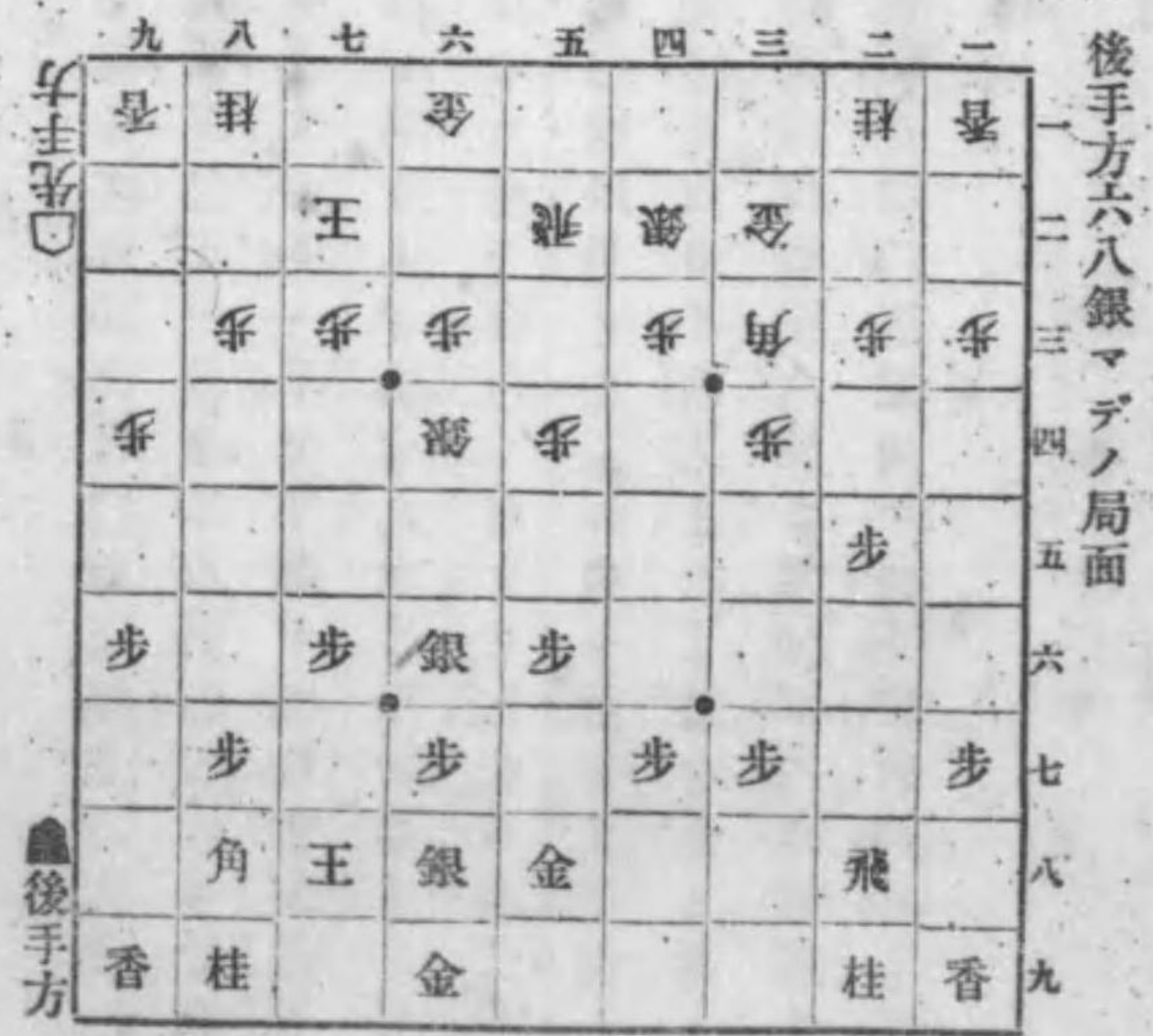
○四四歩▲(夏)七七銀○四三銀▲三六歩○四二角▲一六歩▲三三桂○二四歩▲同歩▲同飛○五一飛▲二八飛○二五歩▲七九角○二一飛▲二四歩。

(夏)七七銀の所。

▲五七銀○四三銀▲三六歩○四二角▲一六歩○三三桂▲二四歩○同歩▲同飛○五一飛▲二八飛○二五歩▲四八銀○五三角▲七九角○二一飛▲三七銀○四五歩

▲二四歩○四四角▲一七桂○五五歩▲二五桂○同桂▲同飛○五四歩▲四八桂(打)○五四桂(打)▲七七銀○五五角

【譯義】○四四歩は四三銀と上り角を引いて指す即ち繰り替へて角の活動を計る手順そこで▲七七銀と上り引角の準備を致します○四三銀▲三六歩は桂を捌く意○四二角と引落しました▲一六歩は場合に依りては一五角の覗きがある故夫を防いで置く○三三桂は態と飛先に隙を見せませんが之れを恐れず▲二四歩と衝蕪ります○同歩▲同飛で○五一飛と引かれますから▲二八飛(引)○二五歩(打)は二筋の位を取り二一に飛を廻して攻めんとするので有ます故▲七九角○二一飛▲二四歩(打)で直ちに三七桂上り



て位を取り返し後手方指し好いので有ます。

(夏) 七七銀の所

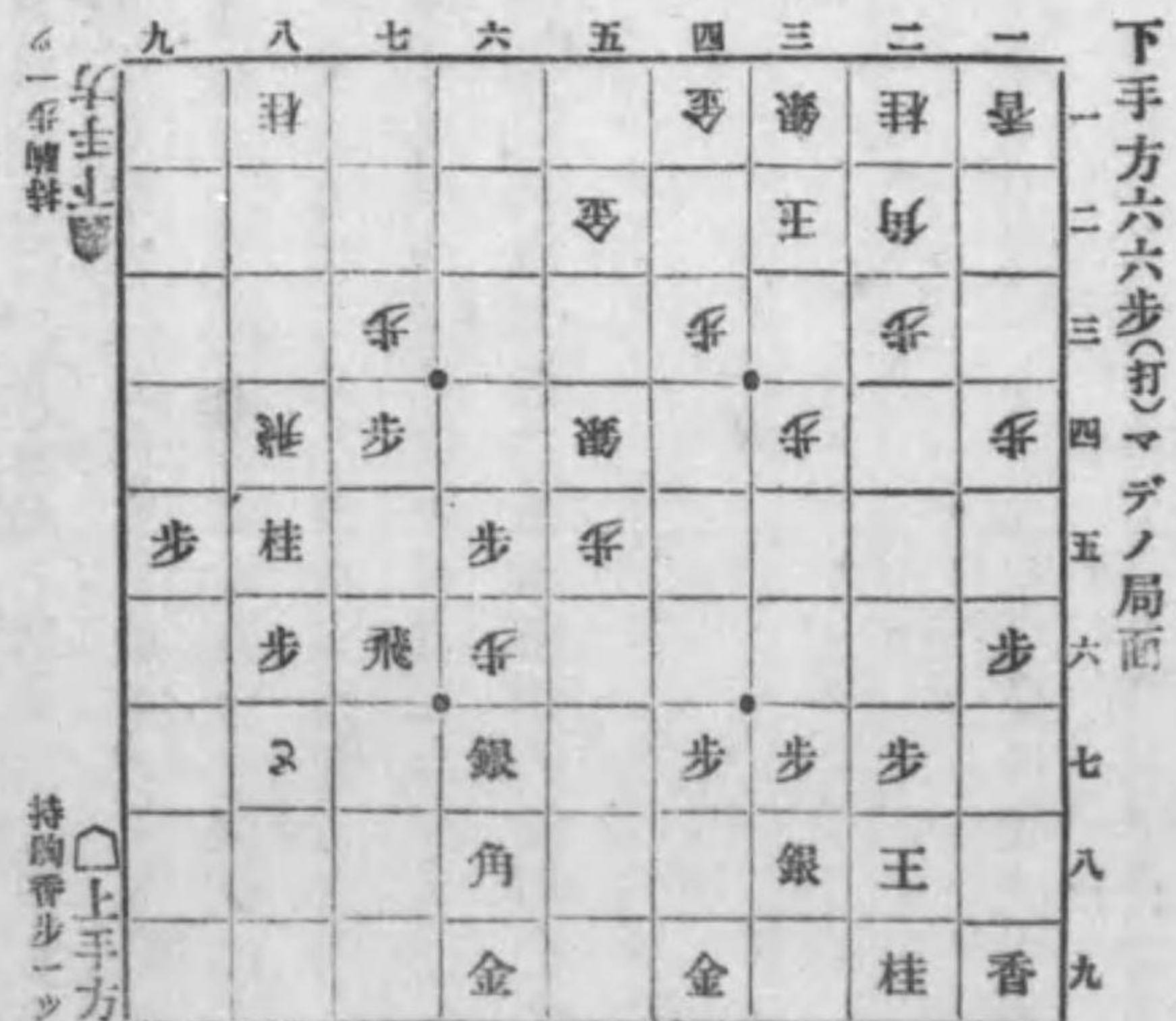
▲五七銀と出ますと後手方指し悪いので有ます其理由は○四三銀▲三六歩○四二角▲一六歩○三三桂▲二四歩○同歩▲同飛○五一飛▲二八飛○二五歩で▲四八銀は七九角の時其利道を通したので有ますが此一手で手順が遅れます○五三角は角の方向を替へて敵の飛先にも狙みが利きます▲七九角と引かれましたから○二一飛で二四歩(打)では四五歩三七桂二六歩で面白く有ませんから▲三七銀と出る○四五歩▲二四歩と飛道を切れば○四四角と上られ▲一七桂と早指しに行くと○五五歩▲二五桂○同桂▲同飛で○五六歩と取込まれて致命傷と爲ります故▲四八桂(打)で憂を除かんとすれば○五四桂(打)五六桂と飛べば六六桂同歩同角六四桂同歩で後手方悪し故に▲七七銀(引)けば○五五角で後手方何れにしても五七銀の一手の爲めに指し悪き形有ます。

將碁新定跡講義(終)

明治四十四年九月十一日
京都俱樂部に於て

左番落 七段 阪田三吉
勝 五段 土居市太郎

○七六歩▲三四歩○六六歩▲八四歩○
七五歩▲八五歩○七七角▲九四歩○七
八飛▲六二銀○六八銀▲九五歩○四八
玉▲四二王○三八王▲三二王○一六歩
▲一四歩○二八王▲五二金(右)○三八銀
▲五四歩○六七銀▲六四歩○六八角▲
九六歩○同歩▲同香○九七歩(打)▲同香
(成)○同桂▲九六歩○八五桂▲九七歩(成)
○八六歩▲八四飛○七六飛▲八七と○
九五歩(打)▲六五歩○五六歩▲六三銀○
五五歩▲同歩○六五歩▲五四銀○七四
歩▲六六歩(打)○同銀▲七四歩○七三歩



(打)五六歩○五五歩(打)同角○同銀同銀○七二歩(成)六七銀(打)○八一と七
 六銀(成)○七三角(打)六七八歩(打)○七九角(引)七七と○五五角(成)六八歩(成)○四五
 桂(打)四二金(寄)○六八金同と○同角四四金(打)○七三龍馬六七成銀○八四
 龍馬四五金○二六香(打)六八成銀○二五飛龍二二銀○四五飛龍五七桂(打)○三
 九金六九飛(打)○四八金一五歩○五七金同歩(成)○同龍馬五六歩(打)○同龍
 馬四八金(打)○四九銀(打)三九金○同王五八成銀○二五飛龍四八金(打)○二八
 王三三金(行)也。

阪田七段自評

下手方五四歩は六四歩と指す所なり。
 下手方四二金(寄)穩なる好手なり。
 次に上手方二六香(打)重し之一手實に本局の敗因にして此の場合に於ける先後
 は勝負の分岐点にして深く考慮を要すべきは論を待たず古來二筋の香車は定跡
 にて名人の指將基にも往々見受る所なれど本局は已に吾陣地に敵の成駒あり最
 早や緩き手を爲すべき時ならざるに漫然として二六香の如き緩手を弄せしは上

手として大に恥すべし故に二六香の手にて五二歩と打ち同金と寄れば五四香(打)
 四二金(寄)五二歩(打)六八成銀五一步(成)五七桂(打)四一と同金七二飛(打)三三王五
 三香と成る所なり又香六八成銀の所二二王と寄れば五一歩(成)三二金(上)五二香(成)
 六八成銀四二成香(夏)同金同銀なれば四一と七二飛(打)と指す所なり。
 又前評に立返り四二金(寄)所六八成銀なれば五二香(成)同金五三歩(打)同金ならば五
 一飛(打)此時四二角(打)なる時は四一金(打)四一桂なれば七四龍馬と指す也。
 前評の如く多くの手筋ありしに拘らず二六香の如き悪手を指し六八銀と迫られ
 以下守勢に傾きて敗を取れり此局初盤の分れ宜しかりしも終盤の大失敗は挽回
 の趣なく負となりしは心身の精錬を缺ぎし者にして深く恥する所なり今後一敗
 に屈せず斯道の爲め手腕を磨き大に奮勵せん事を大方の諸君に契ふ。

明治四十五年三月廿四日岡山市山崎町
 藤久樓上に於て午後一時より十時まで

左香落 勝 七段 ○ 阪田三吉
 五段 ■ 土居市太郎

○七六歩 三三四歩 ○六六歩 八四歩 ○七五歩 八五歩 ○七七角 九四歩 ○七八
 飛 九五歩 ○六八銀 六二銀 ○四八王 四二王 ○三八王 三二玉 ○五六歩 五

二金(右)〇六七銀一四歩〇六八角一五歩〇七六飛六四歩〇七七桂六三銀
 〇四六角八四飛〇五八金(左)五四歩 〇上手方五五歩までの局面
 〇五七角八二飛〇二八王四二銀〇
 三八銀五三銀〇四六歩五五歩〇同
 歩同角〇六五歩二二角〇六四歩
 同銀(左)〇六五歩五五銀〇五六歩四
 四銀〇六六角三一角〇三六歩九六
 歩〇同歩九七歩(打)〇四七金三三銀
 〇三七桂九八歩(成)〇四五歩九七と
 〇五五角八四飛〇八五桂五四銀〇
 三三角(成)同王〇五五歩圖六三銀〇
 四四歩同歩〇八六歩八七と〇四五
 歩(打)八六と〇同飛七五角〇五六飛
 九七角(成)〇四四歩二二王〇八六歩(打)四二歩(打)〇七五銀(打)八五飛〇同歩

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	将			将	将	将	将	皇
				将		王	将	
	桂	飛	歩	歩	歩	歩		歩
歩	歩		銀		金	桂	歩	歩
						銀	王	
					金			香

〇上手方
持駒銀歩二ツ

七五龍馬〇六一飛(打)五一步(打)〇八一飛(成)一六歩〇同歩一七歩〇七六銀
 五三龍馬〇九一龍一六香〇九四龍一八歩(成)〇三九王八六龍馬〇三五歩
 一七角(打)〇四八玉三五角(成)是まで指かす

三月廿五日岡山市下石井高橋虎吉氏宅に於て指繼
 午前十時より午後三時まで

〇一六飛一五歩(打)〇五六飛六六歩(打)〇四六桂(打)七六龍馬〇三六香(打)四
 六龍馬〇同飛二八と〇一四香(打)三二金〇三三歩(打)同桂〇三四香四九龍
 馬〇同銀六七歩(成)〇一三角(打)二一玉〇二五桂(行)三九銀(打)〇三七王二五
 桂〇二六王三三歩〇一二角一王〇三五角(成)二二桂(打)〇一五香一四桂
 〇同香二二桂(打)〇二三角(成)一四桂〇同龍馬二三銀(打)〇一二歩(打)二一王
 〇二四桂 以上百四十五手

阪田三吉講評

下手方一四歩突に對して〇六八角は飛車を中段に浮ぶ趣向なれど面白からず此
 所矢張り普通に一六歩と位取りして指す方宜しかりし。
 下手方五五銀と上り五六歩と打たせ四四銀の手順面白し又三三銀下る穩な

る指方なり下手方八六と面白からず六八角(打)四四歩八六と五六飛七七と運ぶ時は下手指良し著者曰く此將棋初盤上手方形勢悪しく苦戦奮闘至れり盡せり殊に終盤六六歩(打)四六桂(打)以下識者尤も評論有り次に下手方四六龍馬荒きに失せずや若し此手にて一三龍馬と下せば如何の間に對し余答へて曰く若し一三龍馬なれば二五桂二四龍馬三四桂一二王四三步(成)同金一四香(打)(香)同龍馬なれば二二桂(成)同王一四龍の手あり又(香)同龍馬の所一三桂合いなれば同香同桂二二桂(成)同王三三香(成)同金同桂(成)同龍馬三四歩(打)二四龍馬一四桂(打)なり又上手方(打)三五角は大事を取り過ぎて遅し三一角(成)三五銀(打)同玉三四歩二六王三五金(打)一五玉と指せば勝早し。

明治四十五年四月八日
京都市五條俱樂部に於て

左番落 勝 七段 阪田 三吉
五段 土居市太郎

○七六歩 三四歩 六六歩 八四歩 七五歩 八五歩 七七角 九四歩 七八飛 六二銀 六八銀 九五歩 四八玉 四二玉 三八王 三二王 一六歩 一四歩 二八王 五二金 有 三八銀 九二飛 八九飛 九四飛 五八金 七四

歩 同歩 同飛 六七銀 六四歩 七八飛 七五歩(打) 五六歩 九六歩 同歩

同香 六五歩 七七角(成) 同飛 九八

○上手方六六龍馬マデノ局面

香(成) 九二角(打) 八四飛 七五飛 七
 三歩(打) 六四歩 八九成香 六五角(成)
 五四角(打) 六六龍馬 二二銀 九二
 歩(打) 七四歩 五五飛 九四飛 八五
 飛 九八飛(成) 五五歩 八七龍 八六
 歩(打) 七三桂 八二飛 八一歩(打) 八
 三龍 四五角 五六銀 同角 同龍馬
 一五歩 八一龍 一六歩 一八歩(打)
 六五銀(打) 四六龍馬 六六歩(打) 六
 三歩(成) 同銀 六八歩(打) 七六銀 五
 四歩 六五桂 五五龍馬 三三銀 六
 六龍馬 七七桂(成) 四六歩 四四歩 七三歩(打) 六七歩(打) 同歩 五四銀 七二

一	香	桂	王	歩	銀	歩	金	馬	飛	龍	香
二											
三											
四											
五											
六											
七											
八											
九											

○上手方
持駒歩四ツ

銀○六九五金四二銀○三七桂金六四銀○六八角金九四步○七七銀金九五步○五
 八金(右)金七四步○六六步金七五步○同步金同銀○七六步金六四銀○四六步金三
 一王○四七銀金四四步○六七金(右)金四三銀○一六步金一四步○七九王金五一金
 ○五六步金同步○同銀金五二飛○八八王金四二金(上)○一五步金同步○一三步金
 同香○四五步金同步○二九飛金三五步○同角金四四銀○六八角金三五步○一四
 步金同香○二四步金三三金(右)金二三步(成)同金(寄)○二四步金一三金(寄)○四五銀
 金二七步○四四銀金同角○五四步金二四金○二七飛金二三步○四五銀金五五角
 ○五六金金三八銀○五五金金二七銀(成)○六四金金同步○二五步金三七成銀○二
 四步金同步○三四角(打)金四三步○三五角(行)金八六步○同銀金三三步(打)○一二角
 (成)金四四桂○五三銀(打)金八二飛○二二步(打)金四八飛(打)○二一龍馬金四一王○六
 三桂打まで

明治三十六年三月廿日
 於大阪市新町岡本樓

左香落番 當時七段 關根 金二郎
 當時四段 阪田 三吉

○七六步金八四步○七八飛金八五步○七七角金六二銀○四八玉金三四步○六六

欠

欠

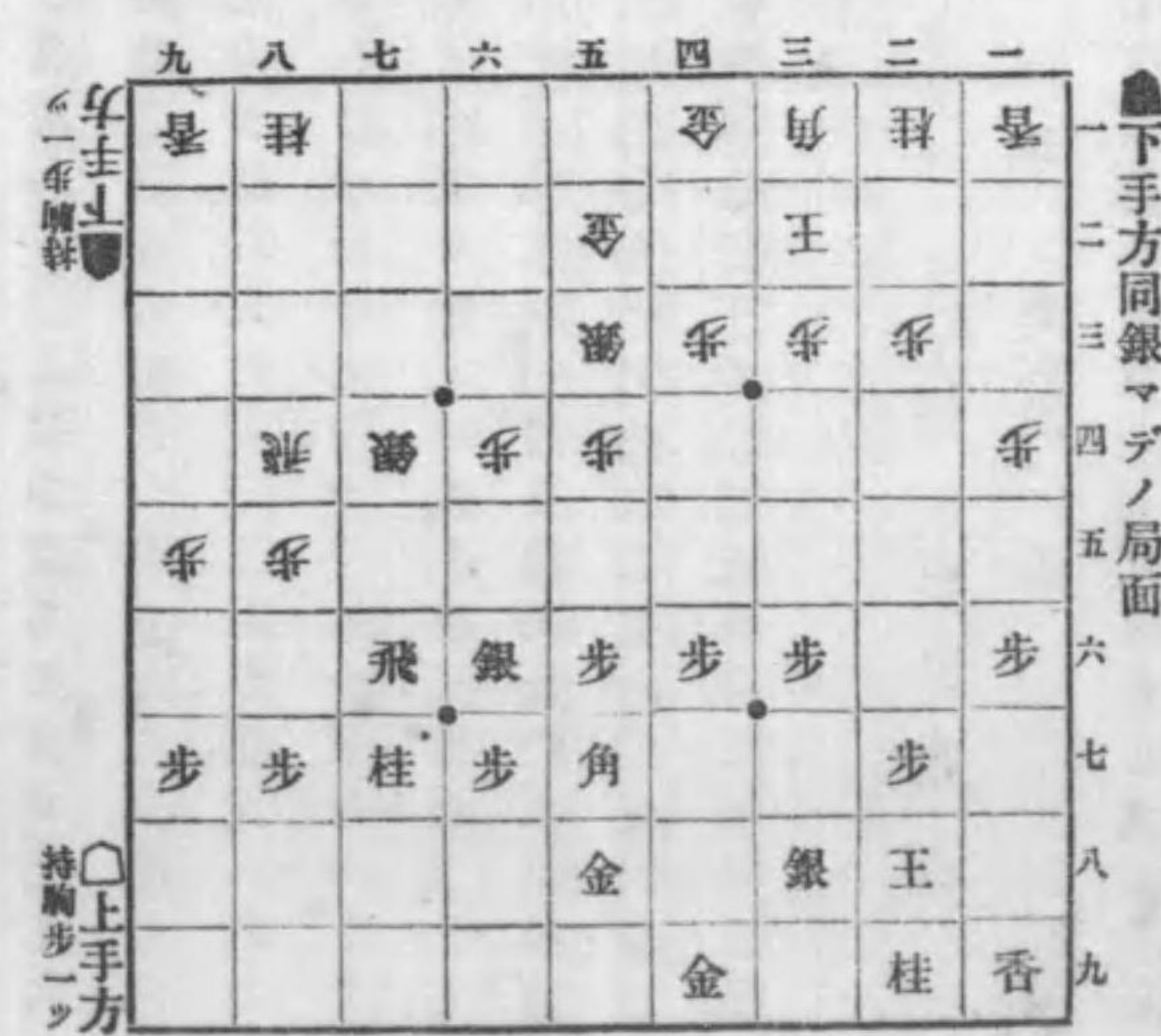
銀○四六銀▲四四銀○五八飛▲四二銀○三六步▲五三銀(上)○四八銀▲九六步○
 同步▲同香○三七銀(上)▲八四飛○六五步▲九八步○九七步▲九九步(成)○九六步
 ▲八九と○二六銀▲八六步○同步▲九四飛○三五步▲九六飛○九八步▲七三桂
 ○九七香(打)▲六五桂○四四角▲同角○九六香▲六九角(打)○三四步▲五八角(成)○
 同金▲七八飛○六八金(引)▲七九飛(成)○六九步(打)▲七七步(打)○八一飛▲四二金(寄)
 ○八三角(打)▲七八步(成)○六五角(成)▲六八と○同金▲七一歩○四五桂▲三一王○
 三三銀(打)▲六二銀○四四銀▲同步○三三歩(成)▲同桂○同桂▲同金○三四歩▲同
 金○八二飛(成)▲七二桂○四三角(打)▲四二桂○七五龍馬▲二二王○二五銀▲三三
 金(引)○三四桂▲同桂○同銀▲四三金○同銀(成)▲三三歩○二五桂▲二四銀○三三
 桂(成)▲同銀○三四歩▲二四銀○六六龍馬まで。

明治四十一年七月五日
 横濱に於て

左香港 當時六段 阪田三吉
 勝 故六段 養 太七郎

○七六歩▲五四歩○五六歩▲六二銀○七五歩▲八四歩○七八飛▲八五歩○七六
 飛▲四二王○七八銀▲三二王○七七銀▲四二銀○四八王▲五三銀(左)○三八王▲

九四歩○六六銀▲九五歩○五八金(左)▲四四銀○一六歩▲一四歩○七七桂▲六四歩○二八王▲五二金(右)○三八銀▲六三銀○七九角▲八四飛○五七角▲三一銀○四六歩▲五三銀○三六歩▲七四歩○同歩▲同銀○七五銀▲同銀○同飛▲七四歩○二五飛▲八二飛○八五飛▲同飛○同桂▲八二飛(打)○八六歩▲六二銀(引)○七三歩▲同桂○七一銀(打)▲同銀○七三桂(成)▲八六飛○六一飛▲五三角○四五桂▲四四角○六六角▲五一金(引)○六四飛(成)▲六六角○同龍▲八九飛(成)○五三角▲八四角○七一銀(成)▲七三角○五三桂(成)▲八四角○六二銀▲六五歩○同龍▲三九銀○三七王▲二八銀(打)○四七王▲二九銀(不成)○四三成桂▲同王○五一



銀(不成)▲同金○五九金(打)▲二八銀(不成)○四八金(左)▲五三桂○六四龍▲六二歩○二九銀▲四九龍まで。

大阪市阿彌陀池
藤之茶屋に於て

平手 勝當時 五段 阪田三吉
先 故 六段 吉田一歩

○七六歩▲三四歩○七五歩▲八四歩○七八飛▲八五歩○七六飛▲八八角○同銀▲四五角(打)○五八王▲二七角(成)○三六歩▲二六龍馬○七四歩▲同歩○五五角(打)▲二二銀○六六飛▲五四歩○八二角(成)▲同銀○六三飛(成)▲四四龍馬○七八金▲五五角(打)○七七桂▲六二歩○七四飛▲一九角(成)○三八銀▲七一香(打)○八五龍▲七六歩○七五歩▲七七歩(成)○同銀▲六四龍馬○六六銀▲七二金○三七



銀八三金〇四六銀九四金〇九六龍五三龍馬(左)〇八六步五二龍馬〇八七
 龍八四金〇五六步七五金〇同銀七五龍馬〇七三歩同香〇七二金七六
 龍馬〇同龍同香〇八二金六九銀〇同王七八香(成)〇同王七七歩(打)〇六九
 王七九飛〇五八王七八歩(成)〇七一飛(打)〇六一桂(打)〇四八王四二王〇八一
 金三二王〇二四歩同歩〇四五銀(打)〇六九飛(成)〇五八銀(打)〇八九龍〇六四桂
 (打)〇四二龍馬〇六一飛(成)〇六八と〇三四銀五八と〇同金五一金(打)〇二三歩
 (打)〇三三銀〇五一龍同金〇二二金同銀〇同歩(成)同王〇三五桂(打)〇二八飛
 〇三八香(打)〇四九銀(打)〇二三桂(成)〇三一玉〇二二銀四一王〇九六角七四歩
 〇同角六三金凡百十二手。

明治四十二年十一月十日

左香港 勝

當時六段

阪田 三吉

當時四段

土居市太郎

〇七六歩三四歩〇六六歩八四歩〇七五歩八五歩〇七七角九四歩〇七八
 飛六二銀〇六八銀九五歩〇四八王四二玉〇四八玉三二王五八金(左)〇五
 二金(右)〇一六歩一四歩〇五六歩五四歩〇五七銀九二飛〇五九角九六歩

〇同歩同飛〇九七歩(打)〇九四飛(打)〇七六飛八四飛〇四六銀四二銀〇三六
 歩三三銀〇二八王四四銀〇三八銀 下手方五五歩マデノ局面
 六四歩〇四八角六三銀〇六五歩
 九四飛〇九六飛九五歩(打)〇六六飛
 五五歩〇七七桂六五歩〇同飛六四
 銀〇六六飛五六歩〇同飛五五銀(左)
 〇同銀同銀〇七六飛六六歩(打)〇六
 八歩(打)五六歩(打)〇七四歩同歩〇八
 三銀(打)八四飛〇七四銀(成)九四飛〇
 五四歩(打)三一銀〇六五桂九七角(成)
 〇二六角三五歩〇同角四四銀(打)〇
 二六角三五歩(打)〇八六歩八七龍馬
 〇七五飛五七歩(成)〇同金七四飛〇
 同飛六五龍馬〇七一飛(成)五四龍馬〇八四飛(打)五三龍馬〇八一飛(成)七一

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	王	銀	角	金	飛	歩	歩
香	桂	王	銀	角	金	飛	歩	歩
香	桂	王	銀	角	金	飛	歩	歩
香	桂	王	銀	角	金	飛	歩	歩
香	桂	王	銀	角	金	飛	歩	歩
香	桂	王	銀	角	金	飛	歩	歩
香	桂	王	銀	角	金	飛	歩	歩
香	桂	王	銀	角	金	飛	歩	歩
香	桂	王	銀	角	金	飛	歩	歩

龍馬○同龍○二四桂(打)○四八桂(打)一五步○九一龍○一六桂○同香○同歩○一
 八歩(打)一香(打)○三四香(打)三三桂○五六桂(飛)五一步(打)○二五桂(打)二四
 銀(打)○四四同銀○三三桂(成)同銀(左)○同香(成)同銀○二五桂(打)二四銀○三
 四銀(打)二一桂(打)○九四龍○四四桂(打)○四六金○四二金(上)○六五角(打)二二王
 ○五三歩(打)同金(直)○九二龍○五二香(打)○五四歩(打)六三金○八一龍○三一飛
 (打)○四五銀(打)五五金○同銀同香○同角○三四飛○五一龍○三一銀(打)○三五
 金同飛○同角同銀○同歩○七三角(打)○四六香(打)五一角○四四香○五三金
 (打)○三四桂(打)三二王○八三飛(打)七三銀(打)○八一飛(成)五二金(寄)○六三金(打)
 一七歩(成)○同歩同香(成)○同桂○五四金○五二金○一七香(成)○同王○一六歩
 (打)○一八王。

明治三十六年三月廿一日

左香車落

當時七段

關根金二郎

勝

當時四段 阪田三吉

○七六歩○八四歩○七八飛○八五歩○七七角○六二銀○四八王○五四歩○五六
 歩○四二銀○三八王○五三銀(左)○六八銀○四二王○五七銀○三二玉○二八王

九四歩○三八銀○四四銀○一六歩○九五歩○四六歩○三一角○四八飛○八六歩

○同歩同角○八八飛○八五歩○六六

○上手方七五歩までの局面

角○七四歩○三六歩○五三銀(上)○三七
 桂○六四角○四八飛○四二銀○四五歩
 五三銀(引)○五八金(左)○八六歩○七七
 桂○七三桂○七五歩○八四飛○四四歩
 同歩○八五歩○九四飛○四四角○同
 銀同飛○七五歩○七四歩○八八角(打)
 七三歩(成)○同角○六六銀(上)○四三歩
 (打)○四五飛○八七歩(成)○六五桂○六二
 角(引)○七三銀(打)○六四歩○六二銀○同
 金○八四歩○三四銀(打)○四八飛○六五
 歩○同銀○八四飛○七四歩○一四歩○
 六四角○一五歩○九一角(成)○一六歩○二六歩○五三桂○五四銀○七四飛○八一

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇		香		香		王		皇
	飛			飛	王	飛	飛	
		飛	飛	飛				
		飛	歩		歩			
	飛		角	歩		歩		歩
		桂	歩	銀		桂	歩	王
				金		飛	銀	
						金		香

○上手方
持駒一ツ

龍馬▲八四飛○七一龍馬▲五七步○同金▲五四飛○六二驢馬▲七九角(成)○四七
 金▲六四飛○九五龍馬▲四五桂○一八步▲五七桂(成)○二九桂▲四八成桂○同金
 (引)▲九八飛○八五龍馬▲五七銀○同金▲同龍馬○四八步▲九九飛(成)○一五香▲
 一七步(成)○同步▲一四步○同香▲一三三○二二銀▲同王○四一龍馬▲三一金○
 五二金▲四一金○同金▲五一銀(打)○同金▲同銀○四一金▲三一金○五一金▲四
 八龍馬○三九金(打)▲同龍馬○同金▲四八金○四九步▲三九金○同王▲六七飛(成)
 ○二八王▲一四步○三五步▲五八龍○三九銀▲二七香○同王▲三五銀○四七銀
 (打)▲四九龍(連)○五八銀▲三六角(打)○二八王▲二七金○同銀▲五八龍○四八桂(打)
 ▲二七角(成)○同王▲三六銀○同桂▲同銀○同王▲四四桂○二五王▲一三桂▲一
 六王▲一五步○同王▲二五桂○一四香▲二四銀○一六王▲一四香○二七王▲三
 七桂(成)▲下

平手 勝 六段格 藤内源三郎

當時六段 阪田三吉

○三四步▲七六步○八四步▲二六步○八五步▲二五步○三二金▲七八金○六二

欠

欠

大正二年四月一日印刷
大正二年四月五日發行

定價金四拾五錢

著者 坂田三吉

發行者 大阪市南區心齋橋壹丁目五番地
名倉龜楠

印刷者 大阪市東區博勞町一丁目一番地
宮野孝恩



將基新定跡講義

大阪市心齋橋南詰東入

發行所 名倉昭文館

電話南二一〇五番
振替大阪二五六〇番

344

211

344
211

10.1.18

終